

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

大項目 1	小項目	主な取組	自己評価
教育内容及び教育の成果等	1-01	TA等の充実、大学院分野横断プログラム、早期履修制度の導入拡大、法曹コース運営、アクティブ・ラーニング推進、デジタル技術の活用、全学共通教育プログラム、実施方針に基づく授業	B
	1-02	新英語教育プログラム開発、英語教育の改善	B
	1-03	現場体験型インターンシップの質の向上、社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育の提供、データサイエンス・AI等の新たな副専攻プログラムの設計	S
	1-04	グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施、2大学1高専の連携	B
	1-05	ルーブリック評価の導入(令和元年度に達成済)	-

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 1] 年度評価		委員別評定等								
評価素案	評定	評定	評定説明(コメント)							
<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、超高齢社会を迎える中、大学院分野横断プログラムとして「超高齢社会学際プログラム」を開講し、幅広い視野と応用的な思考力を涵養する教育に取り組んだ。 現場体験型インターンシップについては、積極的に受け入れ先の調整を行うとともに、コロナ感染対策に十分な配慮を行い、学生が安心・安全に、満足するような形で、きめ細かい対応をとりながら実施した。 「新しい対面授業」として、知識を教授する授業の一部では、録画教材を有効活用し、学内での対面授業においては、学生同士の議論の時間を充実させる等、教育の質の向上を図った。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学共通教育プログラムにおいて、学生が専攻する分野以外の学びの充実を図ることを期待する。 TA従事者に対するアンケートについては、今後、アンケート回答者を増やし、検証結果をより正確なものにすることを期待する。 	◎	2	◎ コロナ禍を契機として、対面教育法の工夫やデジタル技術を活用した教育プログラム・方法への発展が随所にみられることは評価できる。							
		<p>参考意見(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次の外部英語試験受験率がほぼ100%であることは素晴らしいが、外国語スキルを磨き続けて社会で通用する語学力を身につける、と言う意味では、2年次以降も外部英語試験の受験を推奨すべきではないか。 	◎	2	◎ 現場体験型インターンシップについては履修者数が少なかったものの、コロナ感染対策に十分な配慮を行いながら、学生が安心・安全に、満足するような形できめ細かい対応がとられている点が評価できる。 ◎ 早期履修制度を導入する部局が拡大したことにより、学部生の大学院履修科目数が大幅に増大し、それともなって大学院進学者も大幅に増加した点は評価できる。 ◇ 全学共通教育プログラムにおいて理系学生に推奨される文系科目、文系学生に推奨される理系科目が設定され、学生が専攻する分野以外の学びを充実させるとともに、専攻する分野の捉え直しや学びの深化が図られることを期待する。					
				◎	1	◎ 分野横断プログラム「超高齢社会学際プログラム」が新規開校し、今後、超高齢社会を迎える中、分野横断的に高度な専門性を有する学生の育成に取り組んでいる点が評価できる。 ◎ 「新しい対面授業」として、録画教材を有効活用しつつ、対面授業では、教員による学生の質問への回答、学生同士が議論する時間の充実など、より充実した授業となるよう取組を推進している点が評価できる。 ◎ 現場体験型インターンシップについて、コロナ禍にも関わらず、積極的に受け入れ先の調整を行うとともに、安心・安全にインターンシップが遂行されるよう、学生に対するコロナ感染予防対策の周知のほか、事務局による学生、受け入れ先の双方に対する慎重かつ丁寧な対応が行われた点が評価できる。新型コロナウイルスによる中断者を出すことなく、例年2割を超える中断率を1割未満に抑えることができている。 ◎ 一部の学科を除くすべての学生がデータサイエンス・AIに関する知識やスキルを修得することができるよう、数理・データサイエンス副専攻の開設準備を行った点が評価できる。特定の能力に偏ることなく、高等教育で行うべき汎用的な知識スキルを学修できる都立大独自のカリキュラムとして工夫されている。				
					◎	2	◇ 1年次の外部英語試験受験率がほぼ100%であることは素晴らしいが、在学中も、外国語スキルを磨き続けて社会で通用する語学力を身につける、と言う意味では、4年生時でも統計を取り、推奨して行くべきではないか。 ◇ 現場体験型インターンシップは、社会に対して知識の薄い学生にとって、とても貴重な経験を得るプログラムであり、1~2年生で体験するのが望ましいのではないか。 ◇ 受講生減少のため法科大学院を止める大学も多いが、法曹の専門家へのニーズが低くなることは有り得ないので、法曹コースの充実には価値がある。			
						◎	2	◎ 分野横断型の超高齢社会学際プログラムの立ち上げは評価できる。今後の成果に期待するとともに、もう少し履修者が増やせる可能性も検討いただければと思います。 ◎ 現場体験型インターンシップや、各部局の要望に応じたIRも評価できる。		
							◎	2	◎ コロナ対策下で「現場体験型インターンシップ」受入枠を目標を大幅に上回り確保したこと。	
								◎	3	◎ 令和2(2020)年度に実施したTAアンケート結果等を検証し、TAのスキルアップに繋げるとともに、委嘱事務手続きに関する様式の統廃合等を行った。 ◎ 大学院分野横断プログラムとして「超高齢社会学際プログラム」が開講され、学生自身の研究に対する、幅広い視野と応用的な思考力を育成する機会となった。 ◎ 都立大特有の授業方針として、「対面授業でしか得られない教育効果」の獲得を目指す「新しい対面授業」を実施した。 ◎ 「現場体験型インターンシップ」の質の向上に向けた取組を行うことで、インターンシップの中断割合が大きく減少した。 ◇ TA従事者に対するアンケートの回答数(112)を増やし、検証結果をより正確にする必要がある。KPIに掲げたTA等の人数「年間延べ1,000人以上配置」が達成されていない。減少傾向にあるSAをもっと活用してはどうか。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 2

教育の実施体制等
【教育改革を推進する取組の強化】

小項目	主な取組	自己評価
1-06	データ分析に基づく教育改善に向けた取組、大学教育の質に関する情報等の公表、博士後期課程の研究力強化とキャリアパス支援	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目2】年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教学 IR データをもとに、各部局のニーズに応じた分析が活発に行われ、全学的な教育改革に反映されている。 ・ 博士後期課程の活性化に向けて、キャリアパス支援のためのセミナー、ワークショップ、外部メンターによる面談のほか、研究専念支援金や研究奨励費を支給する等の取組を行った。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教学IRデータを、一層大学運営に活かすとともに、外部への情報発信に活用することを期待する。 	3	
		3	
		3	◎ 文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創設事業」の実施、日本学術振興会特別研究員申請支援、国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の申請などにより、博士後期課程の研究力強化とキャリアパス支援を図っている点が評価できる。キャリアパス支援のためのセミナー、ワークショップ、外部メンターによる面談なども開催し、延べ114名と多くの参加も得ている。
		3	◇ 教学 IR によるデータ活用が、どんな教育改革につながるのか。生み出された知見は、ただデータとしてある、ということではなく、実際に大学運営の場に活かして頂きたい。
		3	
		2	◎ 教学IRデータを教育の質向上に学長以下、全学で取組みを進めていること。 ◇ 教学IRデータのさらなる活用と外部への情報発信をより活発化させて頂きたい。 ◇ コロナ影響下であるが、博士後期課程のキャリアパス支援の拡充(参加者増)を期待する。
2	◎ 教学 IR データのさらなる充実を図り、各部局のニーズに合わせた分析が行われ、全学的な教育改革に反映されている。 ◎ 博士後期課程の研究力強化とキャリアパス支援を拡充し、博士後期課程学生7名が日本学術振興会特別研究員に採用された。 ◎ 大学院博士後期課程の活性化に向けて、フェローシップ創設事業において15名の博士後期課程学生に研究専念支援金及び研究奨励費を支給した。		
参考意見(案)			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 3
 教育の実施体制等
 【学習支援環境の整備、教育の質の改善】

小項目	主な取組	自己評価
1-07	キャンパス学修環境の整備・拡充	B
1-08	FD 関連セミナーの拡充	B
1-09	四半期授業及び科目ナンバリングの導入(令和2年度に達成済)	-

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目3】年度評価

評価素案	評定	評定説明
◎優れた点・特色ある点 ・ FD・SD セミナーの実施にあたり、企業の採用担当者や卒業生を講師に招いた。また、38 大学 92 名の参加者を得て大学間の情報交換や教務関連のケーススタディを用いたグループセッションを行う等、FD・SD の更なる活性化に向けた工夫がなされた。 ◇更なる充実が期待される点 ・ FDセミナーへの参加者数増加に向けた取組を期待する。		

参考意見(案)

委員別評定等	評定	評定説明(コメント)
	3	
	3	
	3	◎ 部局独自セミナーやその他関連 FD セミナー等の実施回数が令和2年度と比較して2倍に増加し、延べ参加教員数も大幅に増加している点が評価できる。全学と部局の双方において FD 活動が活性化している。
	3	◇ 企業の採用担当者や卒業生を講師に招いた FD・SD セミナー(社会で必要な資質、大学時代に身につけるべき能力)は、意義がある。 ◇ 職員の教務事務セミナーで、他大学との情報交換、意見交換を行うことも、大変価値があると思われる。
	3	
	3	◇ FDセミナーの実績が(オンライン開催形式になっているにもかかわらず)今一步の感あり。
	3	◎ 職員を対象とした教務事務セミナーを開催し、38 大学 92 名の参加者を得て大学間の情報交換や教務関連のケーススタディを用いたグループセッションを行った。 ◎ コロナ禍においても、FD 活動を効果的に実施した。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

大項目 4 学生への支援	小項目	主な取組	自己評価
	1-10	ボランティアプログラムの提供、オリンピック・パラリンピックにおけるボランティアの調査、ボランティアの学内意識醸成と活動支援、ボランティアセンター卒業生のネットワーク構築と在学生への還元	B
	1-11	課外活動支援制度による課外活動への支援、顧問の制度化へ向けた取組	A
	1-12	学生への総合的な健康支援、対面しない学生相談の機会の提供	B
	1-13	学生への経済支援	A
	1-14	支援を必要とする学生に対する支援、多様性を踏まえた構成員に対する支援策の検討及び実施、セクシュアル・マイノリティへの理解啓発の促進	A
	1-15	OBOG ネットワーク拡大及び OBOG 参加行事の改善、既存のキャリア支援行事の改善、卒業生への就職支援体制の構築、大学院生や外国人留学生へのキャリア支援強化	A

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 4】年度評価

評価素案		委員別評定等		
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)	
◎優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍においても、物品購入等、9団体の課外活動を支援し、結果として、支援団体からは人力飛行機の2団体がテレビ局主催のコンテストで優勝する成果につながる等、課外活動の活発化が図られた。 ・ 学生への経済支援については、学生ポータルメール配信機能を活用すること等により、対象学生にもれなく情報を提供し、制度の周知と共に申請機会の見逃し防止につながり、令和2年度に、大幅に増加した学生の規模を維持した。 ・ 手話講習会やパソコンテイク講習会等の実施を通じた、支援スタッフのスキルアップにより、支援体制の充実が図られている。 ◇更なる充実が期待される点 ・ コロナ禍で健康診断受診率が停滞するのはやむをえない面もあるが、引き続き受診率の向上を目指して目標値に近づける取組が行われることを期待する。 ・ OBOG ネットワークへの登録者数は着実に向上しているものの、さらなる増加が望まれる。	◎	2	◎ コロナ禍に対する学生への経済支援や、またコロナ禍の影響からいち早く立ち直ってボランティア活動、障がい学生支援、キャリア形成支援などを進めて実績を上げている点が評価できる。	
		◎	2	◎ 課外活動支援制度では9団体への支援を決定し、3,275,000円を超える支援を行った。支援団体からは人力飛行機の2団体がテレビ局主催のコンテストで優勝するなどの目覚ましい成果を挙げ、コロナ禍においても課外活動が活発化している。 ◎ 障がい学生支援に関連する様々なイベントが実施され、新たな支援スタッフ39名の確保につながっており、今後の支援体制の充実が期待できる。 ◇ コロナ禍で健康診断受診率が停滞するのはやむをえない面もあるが、引き続き受診率の向上を目指して目標値に近づける取組が行われることを期待する。
		◎	2	◎ ボランティアセンターに関わった卒業生のネットワークの構築を図った点が評価できる。卒業生が、社会人となった後も継続してボランティア活動に関わりやすくなることに加え、在学生にとっても卒業生から様々な情報、支援を得られることから、継続したよい循環が期待できる。 ◎ 提案公募による課外活動支援制度により9団体への支援が行われ、うち2団体は人力飛行機のテレビ局主催コンテストで優勝する等、コロナ禍であっても、大学の知名度・ブランド力向上に資する活動が行われた点が評価できる。 ◎ 国の高等教育の修学支援新制度、都立大独自の授業料減免制度により、多くの学生が学修機会を失うことなく、大学での学びを継続できた点が評価できる。学内の日本学生支援機構の奨学金担当と大学独自の授業料減免担当が綿密に連携して事務処理を行ったり、対象学生にもれなく情報を提供するなど、充実した取組が行われた。 ◎ 障害のある学生等への支援スタッフについて、説明会や各種講習会を開催し、新たに39名の支援スタッフを獲得した点が評価できる。オンライン開催により、卒業生や入学希望の高校生など、学外の参加も可能とし、学内に限らず社会に貢献する活動となっている点も評価できる。 ◎ OBOGネットワークの登録方法を工夫するなどして、登録者数は年々増加している。企業研究セミナー・学内合同企業説明会の特設サイトにて、在学生向けのOBOG作成動画メッセージを公開するなど、新たな取組も行われている点が評価できる。 ◇ 定期健康診断受診率について、令和2年度の63.0%から令和3年度には74.9%まで向上した点が評価できる。令和元年度以前は80%以上を維持していたことから、引き続き、学生の健康支援の充実のために、中期計画目標の90%が達成するよう、取組の推進が期待される。
		◎	2	◎ 国の修学支援新制度の後ろ盾も含め、経済的支援を行う学生が、令和2・3年度で、1.5倍になった。 ◇ OBOGネットワークの登録者が増えることは、キャリア支援ということだけでなく、先輩後輩の繋がりが出来るきっかけが増える意味でも意義深い。 ◇ 障がい者支援に対する理解と実践が深まっている。
		◎	2	◎ 独自の授業料減免制度による経済支援は意義がある。早期履修制度の拡大、キャリア支援行事も意義あると思う。一方で、長期履修制度(事情により同じ授業料で規定の年月よりも長く履修できる制度)の実施はどうなっていましたでしょうか。またでしたらご検討いただければと思います。
		◎	2	◎ OBOGネットワークの登録者数が着実に向上していること(新規登録者数がやや伸び悩み) ◇ 健診受診率向上(63⇒74.9%)は評価できるが、100%化に向けて引き続き取り組んでほしい。
		◎	2	◎ 課外活動支援制度による支援を受けて、人力飛行機の2団体がテレビ局主催のコンテストで優勝するなど、新型コロナウイルス感染症の影響により制限のある活動の中でも、顕著な成果を挙げた。 ◎ 健康診断受診率向上に向けた取組を行い、定期健康診断受診率が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた令和2年度から大幅に改善(63.0→74.9%)した。 ◎ 日本学生支援機構の奨学金制度と大学独自の授業料減免制度を綿密に連携し、多くの学生に奨学金と授業料減免を実施することができた。 ◎ 障がい者支援に関連するイベントを活発に開催し、新たな支援スタッフの獲得やスタッフのスキル向上がなされた。 ◇ 健康診断受診率は前年度から大幅に改善したものの、KPIに掲げた90%が達成されていない。 ◇ OBOG ネットワークへの登録者のさらなる増加が望まれる。
	参考意見(案)			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

大項目 5 入学者選抜	小項目	主な取組	自己評価
	1-16	大学入学者選抜改革への対応及び質の高い学生の安定的確保、インターネット出願の実施	B
	1-17	新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえた大学説明会の実施、志願者獲得のための情報提供	B
	1-18	高大連携事業の推進	B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目5] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
3	◎優れた点・特色ある点 ・引き続きオンラインによる大学説明会において、入試に関する情報提供を積極的に発信し、昨年度を上回る8万回以上の閲覧があった。 ◇更なる充実が期待される点 ・Web大学説明会の総閲覧者数は前年度よりも大幅に増加しているが、志願者数は減少している。志願者数の回復につながる取組を期待する。	3	
		3	◇ Web大学説明会の総閲覧者数は前年度よりも大幅に増加しているが、残念ながら志願者数は減少している。18歳人口の減少が進むなか難しい面はあるが、大学からの情報提供が志願者数の回復ないし維持につながることを期待する。
		3	◎ 志願者数は減少したものの、志願倍率は6.15倍を確保し、コロナ禍においても、入学者数を確保できている。多様な選抜・特別選抜入試も全募集人員のうち30.3%と目標割合を維持している。
		3	
		3	
		3	◎ コロナ影響下でも一定の志願者倍率を確保していること。 ◇ コロナ影響で大学説明会が2年連続中止されており、知名度アップへの新たな取組みを期待。
3	◎ 一般選抜以外の、多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加し、KPI(全体の30.3%)を達成した。		
参考意見(案) <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

大項目 6	小項目	主な取組	自己評価
研究水準及び研究の成果等	1-19	高いレベルにある基礎研究力の維持・強化に向けた取組、学術情報基盤及び研究基盤の整備・充実	B
	1-20	大都市課題解決に資する分野横断的・学際的な大型プロジェクトの発展に向けた取組、高度通信社会における課題解決型研究及び Society5.0 の実現に向けた研究の推進	B
	1-21	研究センターに対する積極的な支援による外部資金獲得、研究センターの質の向上に向けた取組	A
	1-22	国内外への効果的な研究広報活動の推進、オープンユニバーシティ講座における学術研究成果の発信、高校生向け講座の開設に向けた検討	S

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目6】年度評価

評価素案		委員評定	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
◎優れた点・特色ある点 ・ 研究センター等に対する積極的な支援を継続することで、センターの外部資金獲得額は平成 26～28 年度平均獲得額対比 164%、リサーチコアを含む場合の獲得額は 195%となり、目標を大きく超えている。 ・ 世界最大規模の科学ニュースサイトである EurekAlert!において、昨年度の 16 本を上回る 24 本の論文の投稿が行われ、研究広報の充実が図られている。 ・ 新たにオンラインによるオープンユニバーシティ講座を開講し、オンライン専用であることを踏まえた魅力的なコンテンツ作成や、高校生向けに工夫した講座の開講により、全国から多くの受講生を獲得する等、都立大のプレゼンス向上につながった。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 国際共著論文の割合は、目標数値を満たしているものの、低下傾向にあるため、さらなる取組み強化を期待する。 ▲改善すべき点 ・ 被引用度トップ 10%論文の比率(過去5年間平均)が低下しているため、抜本的な強化策を検討いただきたい。	2	◎ 継続的に国際的評価の高い研究論文が数多く出ており、その発信にも熱心である点が評価できる。また外部資金獲得も大幅に増加しており、そのための努力が十分に見られる。	
		2	◎ 研究センターの外部資金獲得額が目標値の平成 26～28 年度比 150%を上回って 164%、さらにリサーチコアを含めれば 195%となり、向上している点を評価できる。 ◎ オープンユニバーシティにおける有料のオンラインスペシャル講座ならびに高校生向け講座では様々な魅力的なプログラムを提供し、全国から多数の参加者を集めている。
		2	◎ 研究センター等外部資金獲得額について、研究センター外部資金獲得額、研究センター等(リサーチコアを含む)外部資金獲得額とも、前年と比較して大幅に増額となっている点が評価できる。平成 26(2014)～28(2016)年度平均獲得額対比で研究センターの外部資金獲得額は 164%、研究センター等(リサーチコアを含む)の外部資金獲得額は 195%を達成しており、中期計画の目標を大きく超えている。 ◎ EurekAlert!で 24 本の論文の投稿が行われ、平均ページビュー数は前年と比較して上回っており、研究広報の充実が図られている点が評価できる。 ◎ 東京都立大学オープンユニバーシティにおいて、オンライン専用講座「オンラインスペシャル」を開講し、オンライン専用であることを踏まえた魅力的なコンテンツ作成、8～9回の長期受講等の工夫により、全国から多くの受講生を確保した点が評価できる。高校生の受講料を無料とすることで、高校生の受講者も多く確保できている。さらに、高校生に向けては、高大連携による高校生向け講座も開設し、あわせると高校生計で 650 名の受講生を確保しており、高校生に対し、大学での学びの場を提供した点が評価できる。大学ブランディングに貢献するとともに、都立大受験意向向上につながっていると考えられる。
		3	▲ 国際共著論文割合、トップ 10%論文割合が、横這いから若干の低下傾向にあると考えられる。トップ研究者の招聘、EurekAlert!発表など対策も取られているが、常に研究力の底上げ対策を指向したい。
		2	◎ 研究センターの支援により外部資金が増加している事は重要である。また高校生の情報発信も早いうちに選択肢を広げる上で重要である。
		2	◎ 外部資金獲得実績が増加したこと。 ◎ 「特記事項」にもあるようにオンライン方式で「全国の」高校生を対象とした講座開設とその実績は特筆に値する成果といえる。是非次年度以降も継続、拡充頂きたい(評価1に近似)。 ◇ 国際共著論文の割合が伸び悩んでいる。さらなる取組み強化を期待する。 ▲ 被引用度トップ10%論文の比率(過去5年間平均)が低下傾向にある、抜本的な強化策を検討いただきたい(元々「トップ10%論文比率10%以上」が中期目標)。
		2	◎ 国際共著論文割合が想定以上の水準を維持している。 ◎ 「トップ 10%論文の割合 10%以上及び国際共著論文の割合 33%以上」の目標に向けて確実に実績を伸ばしている。 ◎ JST や文部科学省の採択を受け、外部資金獲得額の向上がなされた。 ◎ EurekAlert!へ投稿し、都立大教員の研究論文を国際的に広報した。 ◎ 東京都立大学オープンユニバーシティ講座において学術研究成果や高校生向け講座の発信を行い、全国から多くの参加があった。
参考意見			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 7

研究実施体制等

小項目	主な取組	自己評価
1-23	総合研究推進機構における組織的かつ戦略的な研究支援事業の実施	B
1-24	研究センターの質の向上に向けた取組、プロジェクトマネジメントスキル向上に向けた取組、将来を担う若手研究者の支援・育成の推進	B
1-25	海外の有力な研究者等との連携強化に向けた取組、トップ研究者を招へいするための仕組みや研究環境等の整備	A
1-26	若手研究者の海外派遣による研究力強化	B
1-27	国際カンファレンス等での研究情報の発信・収集	B
1-28	科研費新規採択率 30%達成に向けた取組、競争的資金獲得に向けた取組	A
1-29	研究施設・設備の共用化等に向けた取組、高度通信社会における課題解決型研究等のためのローカル5G 環境等の整備	A
1-30	研究センター所属の外国人研究者比率向上、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備、ダイバーシティ推進基本方針に基づく取組、構成員の子育て支援	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 7】 年度評価

評価素案

評定	評定説明
	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際シンポジウムの開催にあたり、海外の研究者を招へいする等、海外の研究者や研究機関との連携につながった。 学長裁量による新たな経費支援制度を導入したこと等により、令和3年度の科研費新規採択率は 34.5%となり、継続して30%以上を維持している。 ローカル 5G 環境を民間企業等へ無償提供し、提供を受けた企業が、学内での実証実験等を通じ、社会実装を進める等、5G の新たなユースケースの創出や産学公連携の促進につながった。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究センター所属の外国人研究者比率は 20.7%に留まっていることから、引き続き、中期計画目標の 30%以上を目指して、取組を強力に推進することを期待する。

参考意見(案)

<ul style="list-style-type: none"> 女性教員数、割合は、この5年間でほぼ変化していない。この向上には、粘り強い総合的な対策が求められるので、改めて対策の確認を行うべきである。

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	◎ 科研費の採択率も高いものを維持しており、また5G ローカルへの取り組みも先進的に行っている点が評価できる。
3	◎ 日本最大級のローカル 5G 環境を活用して、オンライン授業受講環境の整備や民間企業等に対する無償提供など教育面や社会貢献面での充実を図っている。 ◇ 科研費新規採択率は 34.5%となり、令和元年度の水準をさらに上回っている。引き続き、30%以上を維持することが期待される。 ◇ 国の大型研究プロジェクトの採択件数目標をなるべく達成できるよう、引き続き研究支援の推進を期待する。
2	◎ コロナ禍にも関わらず、3つのリサーチセンター、リサーチコアにおいて、4件の国際シンポジウムが開催され、海外研究者8名に登壇依頼するなど、海外研究者の招へいに積極的に取り組んだ点が評価できる。トップ研究者の研究環境を整備し、1名の招へいが決定した点も評価できる。 ◎ 科研費の採択率について、不採択時の助言、申請書類の作成支援、セミナーの開催等、組織的な取組を推進することにより、継続して30%以上を維持している点が評価できる。 ◎ ローカル5G環境の運用・改善を推進する中、民間企業等に広く無償提供したり、学内での実証実験を行うなどして、都立大のプレゼンス向上、社会実装の促進に貢献した点が評価できる。 ◇ コロナ禍において、オンラインでの国際シンポジウムの開催支援を行うなど、研究センターにおける所属外国人研究者比率の向上に資する取組が推進している点は評価できる。一方、研究センター所属の外国人研究者比率は 20.7%に留まっていることから、引き続き、中期計画目標の30%以上を目指して、取組が推進されることが期待される。
3	▲ 女性教員数、割合は、この5年間でほぼ変化していない。この向上には、粘り強い総合的な対策が求められるので、改めて取るべき対策の確認を行う時期に来ているのではないかと考える。
3	
3	◎ JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択されたことを高く評価。 ◎ ローカル5G環境を活用したオンライン授業環境整備を評価。 ◇ 国の大型研究プロジェクト採択件数(元々「大型プロジェクト採択件数12件以上」が目標)
2	◎ 海外の研究者や研究機関との連携を強化するため、国際シンポジウムの開催にあたり、海外の研究者の招へいを積極的に支援した。 ◎ 科学研究費申請の支援を充実し、令和3年度の新規採択率は 34.5%となり、前年度に引き続き目標を達成した。 ◎ 日本最大級である都立大ローカル 5G 環境を民間企業等に提供し、東京都が推進する5G イノベーションの街中実装及び事業化を推進するプログラムに参画し、5G の認知度向上や新たなユースケースの創出及び産学公連携の促進につながった。 ◎ 女性教員確保に向けた広報活動強化等により、女性教員比率は、20.6%となり、引き続き 20%以上を維持した。 ◇ 研究センターの外国人研究者数はこれまで順調に増加していたが、伸び悩む傾向にある。中期計画の目標比率(30%)に向け、更なる取組を期待する。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

大項目 8

都政との連携

小項目	主な取組	自己評価
1-31	全学的な都連携事業の推進、「高度研究」プロジェクトの支援強化	B
1-32	障がい者スポーツ理解促進・裾野拡大、ボランティアプログラム提供、オリ・パラボランティア調査、都民向け機運醸成イベント、「障害者とスポーツ論」の取組、学際的研究プロジェクトの成果還元	B
1-33	都市政策研修・管理職候補者研修等の実施、大都市課題解決に係る文理融合型教育の実施	B
1-34	「高度金融専門人材」の養成及び最先端研究の実施	A
1-35	修了生・在学生と都立大とのネットワーク強化に向けた取組、国際共同研究支援による高度研究修了生との研究ネットワークの強化、帰国留学生短期研究支援制度の理解促進	B
1-36	都関連研究機関との連携強化に向けた取組	B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 8] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
	◎ 優れた点・特色ある点 ・ TMU サステナブル研究推進機構の取り組みの一環として、東京都と国際金融に関する共同研究を2件開始するなど、都政課題の解決に貢献するプロジェクトの組成に取り組んだ。 ・ 東京 2020 大会後も、学生向けにバラスポーツの体験会等を実施するとともに、大会ボランティア活動に参加した講師や学生によるオンラインイベントを開催するなど、大会後のレガシーとして、障がい者スポーツの理解促進に貢献した。 ◇ 更なる充実が期待される点 ・ 高度金融専門人材養成プログラムについては、一定の成果が出ているものの、国際金融都市構想を実現するための施策の検討や、大学院生の研究水準の維持向上を期待する。 ・ コロナ禍の影響があると思われるが学際的大型プロジェクトは組成できていない。施策提案発表会等、都政ニーズと研究シーズを結びつける取組を期待する。

参考意見(案)

<ul style="list-style-type: none"> 大都市課題解決に資する学際的大型プロジェクトの組成については、規模にとらわれすぎず、都政に貢献できるような実のある連携プロジェクトが推進されることを期待する。

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	◇ コロナ禍の影響があると思われるが都の連携事業を活性化することが求められる。
3	◇ 大都市課題解決に資する学際的大型プロジェクトの組成に向け、ヒアリングやニーズ調査など様々な取組を行っているが、コロナ禍も影響して目標値を達成するのは難しい状況にある。規模にとらわれすぎず、都政に貢献できるような実のある連携プロジェクトが推進されることを期待する。 ◇ 高度金融専門人材養成プログラムの整備により、博士前期課程における研究成果が国内の主要なファイナンス関連学会で盛んに発表されている。引き続き、大学院生の研究水準の維持向上が図られることを期待する。
3	◎ 障がい者スポーツの理解促進及び裾野拡大に向けた取組について、時間を限定したオンラインイベント形式ではなく、動画配信形式とすることで、時間や場所を問わず閲覧が可能となり、24,302 回もの閲覧回数があり、効果的な取組が実施できた点が評価できる。配信内容も動画配信で見やすいような工夫も行われている。コロナ禍にあったが、東京 2020 大会に向けた機運醸成、大会後のレガシーとしての障がい者スポーツの理解促進にも貢献している。 ◎ 高度金融専門人材養成プログラムについて、定員を超えた 12 名の学生を確保するとともに、複数の在学生や修了生が修士論文の成果を国内の主要なファイナンス関連学会で発表するなど、高度な知識を有する人材の育成を行っている点が評価できる。 ◎ 金融工学研究センターでは、フォーラムやセミナー、シンポジウムを積極的に開催する中、都の「東京サステナブル・ファイナンス・ウィーク」では 1 日分を担当し、金融業界の立場から気候変動リスクに関するシンポジウムを開催するなど、金融工学分野の最先端研究拠点としての役割を担っている。
3	◇ 感染症対策、DX などをテーマとした研究において、東京都との連携事業が進んだことは、研究と行政双方にとって、大きなメリットがあったのではないかと考える。 ▲ 高度金融専門人材の養成プログラムにおいて成果が出ている面はあるが、国際金融都市・東京の構想実現のためには、もっと抜本的に取り組むべきことがあるように思われる。もちろん、構想設定自体は東京都が行なうものだが、構想を実現するための施策の検討も、東京都行政に寄与するポイントになるのではないだろうか。
3	
3	◎ パラリンピック後も継続して障がい者スポーツ振興に取組み、成果を残していること。 ◎ 都医学総合研究所との共同研究(感染症対策)取組みを評価。拡充と情報発信を期待。 ◇ コロナ対策下でやむを得ない面は理解するが、施策提案発表会の取組み強化を期待する。 ◇ 「グローバルな金融市場で活躍できる高度金融専門人材」像をより明確に示して頂きたい。 ◇ ポストコロナを念頭に「都市外交人材育成基金」を活用した人材交流のさらなる活性化。
2	◎ TMU サステナブル研究推進機構における取組の一環として、東京都政策企画局と国際金融に関する共同研究を 2 件開始した。 ◎ 東京 2020 大会後のレガシーとして障がい者スポーツの理解促進及び裾野拡大に向けたイベントを開催した。 ◎ 高度金融専門人材養成プログラムにおいて質の高い教育を実施し、学会での研究成果が発表できる高度金融専門人材を輩出した。 ◎ 都の関連研究機関との連携強化に向けた取組による共同研究プロジェクト(15 件)が開始された。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 9 社会貢献等	小項目	主な取組	自己評価
	1-37	外部資金獲得促進のための施策の実施と組織体制の強化、技術移転活動の強化に向けた取組、大学発ベンチャー支援促進	B
	1-38	他大学・研究機関等との連携強化、日野キャンパス新棟の産学公連携スペースの活用検討	B
	1-39	地域課題解決に向けた関係機関との連携強化と地域支援	B
	1-40	オープンコースウェアの充実、オープンユニバーシティにおける連携講座の実施、オープンユニバーシティにおける講座の提供、人生100年時代を見据えた講座開設の検討	B
	1-40-2	都立大プレミアム・カレッジの円滑な運営	S

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目9】年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
	◎優れた点・特色ある点 ・引き続きURAによる教員へのサポートをきめ細かく実施することにより、受託研究費等受入金額実績において、法人化後最高額を獲得した。 ・オープンユニバーシティにおいて、歌舞伎座など、東京都ならではの施設と協力した講座を提供し、首都圏以外の新たな受講層の獲得に繋がった。 ・学びの意欲に応えるため、東京都立大学プレミアム・カレッジの専攻科修了者を対象に、3年目以降も学び続けることができる研究生コースを開講した。また広報を一層充実させ、本科では定員50名を大きく上回る205名の志願者(令和3(2021)年度比26名増)を確保した。	3	
		2	◎ プレミアム・カレッジについては広報を一層充実させ、本科、専攻科、研究生コースと安定的に志願者数を維持、増大させている。
		2	◎ 東京都立大学プレミアム・カレッジについて、令和3年4月より、専攻科修了者を対象に、研究生コース(3~4年目)を開講し、最長4年間、ステップアップしながら学び続けられる場を提供している点が評価できる。研究の進捗状況に応じて、年度更新や修了等が可能であり、個々の学びのニーズに応じて、柔軟に選択ができれば見直しが行われている。「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマに、幅広い独自のカリキュラムを提供している中、科目の新設・拡充も行われている。専攻科、研修生コースとも定員を超える志願者数があり、継続して学びたいという気持ちを喚起させる魅力的な学びの場であることがうかがえる。
		3	◇ 地域課題解決に向けて、関係機関(東京さらばしフィナンシャルグループ、東京都立産業技術研究センター)と連携して、地域支援を行うことは、オール東京都の取組みとして評価される。
		2	◎ 50歳以上の様々な経験を積んだシニアを対象とする学びと交流の場は、大都市東京にふさわしく都立大として大変意義のある教育活動だと思う。
		2	◎ コロナ対策下にもかかわらずプレミアムカレッジの志願倍率が4倍を超えたことを高く評価。 ◇ オンライン化も考慮し、プレミアムカレッジ広報対象を近隣自治体から拡大してはどうか? (「生涯学びの機会」は首都圏だけのコンセプトではない)
		2	◎ 受託研究費等受入金額実績において、法人化後最高額を獲得した。 ◎ 大学発ベンチャー支援策を拡充し、認定ベンチャーの設置数は累計で13社となり、中期計画(I-37)の一部を達成している。 ◎ 東京都立大学オープンユニバーシティにおいて、東京都ならではの施設と協力した講座を提供し、首都圏以外のあらたな受講層の獲得に繋がった。 ◎ TMU プレミアム・カレッジの本科では定員50名を大きく上回る205名の志願者(令和3(2021)年度比26名増)を確保した。また、専攻科・研究生コース共に定員を充足している。
	参考意見(案)		

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 10	小項目	主な取組	自己評価
グローバル化 【教育の国際通用性、学生の海外派遣の拡充及び外国人学生の受入】	1-41	四半期授業及び科目ナンバリングの導入(令和2年度に達成済)	-
	1-42	国際社会で活躍できる人材の育成に資する取組等の検討	B
	1-43	国際副専攻コースの着実な運用及び広報活動の積極展開、奨学金プログラムの運用、学生の留学意欲の向上に向けた取組、世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる講義	A
	1-44	新英語教育プログラムの開発、英語教育の改善に向けた取組	B
	1-45	海外企業インターンシップの充実、「海外インターンシップ体験」の推進	B
	1-46	受入留学生数増加に向けた広報展開、短期留学生への教育の充実、短期集中コースの実施、日本語力が十分でない留学生でも学位(博士前期)取得しやすい環境整備、秋入学の導入検討	B
	1-47	都市外交人材育成基金を最大限活用した留学生受入れへ向けた取組	B
	1-48	アジア各国における医療水準の向上のための留学生の受入れ、アジア各国の大学や医療機関等への技術支援の実施	B
	1-49	留学生の受入環境の整備	B
	1-50	異文化理解講座・留学生セミナー等の実施、日本語教育プログラムの実施(大学院人文科学研究科)	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 10] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
◎優れた点・特色ある点 ・オンライン講座にて、世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる連続講義を実施し、多くの受講者を確保するとともに、高い満足度も得ている。コロナ禍で留学が難しい環境にある中、学生に対して知見や視野を広げる機会を提供している。また、一般公開により、社会に向けた学習機会の提供の充実を図った。 ・学生の留学意欲向上を目指して、教員・職員・学生で構成された留学促進チームを新たに立ち上げ、留学促進策を検討・実施した結果、留学英語講座等の参加人数が増加した。 ・都市外交人材育成基金の活用による大学院留学生入学者数は、コロナ禍以前の値を上回って51名の留学生が受け入れられた。	◇更なる充実が期待される点 ・コロナ禍の影響もあり、グローバル人材育成入試での志願者数が減少し、合格者数が定員を大きく下回っており、志願者数の回復に向けた取組が期待される。	2	◎ コロナ禍でグローバル化の取り組みが行いにくい中で、オンラインを利用して世界で活躍する方々をゲストスピーカーとして開催して好評を得ている点が評価できる。
		3	◎ グローバルに活躍する一線級のゲストスピーカーによる多彩な講義が行われた。単位取得に相当する、しないにかかわらず、都立大学生の講座の視聴数は少なくとも、満足度も高かった。また、一般の視聴数も多く、関心の高い内容であったことがうかがえる。 ◎ 都市外交人材育成基金の活用による大学院留学生入学者数は、コロナ禍以前の値を上回って51名の留学生が受け入れられ、目標値に近づきつつある。
		3	◎ 学生の留学意欲向上を目指して、教員・職員・学生で構成された留学促進チームを新たに発足し、留学促進策を検討・実施した点が評価できる。留学意欲の向上を目的とした講座の参加人数は、前年度の58名から78名へ、全学プログラムの応募者数も75名から128名へと拡大している。 ◎ オンライン講座にて、世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる連続講義が行われ、多くの履修者を確保するとともに、高い満足度も得ている点が評価できる。コロナ禍で留学が難しい環境にある中、学生に対して知見や視野を広げる機会を提供している。特別編は、一般に向けても公開することにより、幅広い年齢層より多くの視聴があり、社会に向けた学習機会の提供の充実も図っている点が評価できる。
3	◎ コロナ禍で、実際に海外に留学することは、ほとんど出来なかったが、留学意欲の向上を目的とした講座や、留学準備講座の受講者数の減少は、一定程度に抑えられて、アフターコロナにおける留学再開に期待が持てる状況である。世界の各界一線級のゲストスピーカーによる講義も充実しているし、反響も大きい。	3	
▲参考意見(案) ・留学生の出身地域の「顕著な」多様化を実現するための画期的な取組み施策を期待する。		3	◎ コロナ対策下で昨年度は中止した海外派遣を令和3年度復活実施したことを評価。 ◎ 世界の第一線で活躍するゲストスピーカーによる講演実施(満足度の高さにも注目したい)。 ◎ 日本人学生の留学促進環境作り、1年次の外部英語試験受験などの地道な取組みを評価。 ◎ バングラディッシュなど東南アジア各国の医療水準向上に向けた多数の技術支援を評価。 ◇ ポストコロナを踏まえたインドネシア、マレーシア等での日本留学フェア早期開催。 ◇ 留学生の出身地域の「顕著な」多様化を実現するための画期的な取組み施策を期待する。(ex. 重点交流校からの推薦枠、重点対象地域出身のOB活用など)
		3	◎ 世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる講義を実施し、学内外の受講者から高い評価を得た。 ◎ 都市外交人材育成基金を活用した留学生受入れの取組により、コロナ禍にも拘わらず51名の留学生を新たに受け入れた(前年度よりほぼ倍増)。 ◎ アジア各国における医療水準の向上のための留学生の受入れの取組により、コロナ禍にも拘わらず、前年度と同じ7名の留学生を人間健康科学研究科博士前期課程へ新たに受け入れた。 ◇ グローバル人材育成入試での志願者数が急減し、合格者数が定員を大きく下回った。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 11
 グローバル化
 【海外の大学等との連携、都市外交を支えるネットワーク形成、キャンパスの国際化】

小項目	主な取組	自己評価
1-51	国際交流協定校の拡充、AIMSプログラムの推進、交流重点校との教育・研究交流の強化、国際交流プログラム等の実施	B
1-52	大学の将来を担う若手研究者育成、若手研究者の海外派遣による研究力強化	B
1-53	国際カンファレンス等での研究情報の発信・収集	B
1-54	外国人研究者等受入環境の整備	B
1-55	修了生・在学生と大学とのネットワーク構築に向けた取組、国際共同研究支援による高度研究修士との研究ネットワークの強化、帰国留学生短期研究支援制度の理解促進	B
1-56	学内文書等の多言語化(令和元年度に達成済)	-
1-57	外国人教員比率の向上に向けた取組、職員の語学力の向上に向けた取組	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 11] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
	◎優れた点・特色ある点 ・引き続き、語学研修をオンライン形式で実施する等により、TOEICスコア600点以上を取得している職員の割合を24.3%(正規職員では33.2%)に高めた。	3	
	◇更なる充実が期待される点 ・外国人教員比率について、学長より、各部局に対して外国人教員の能動的採用を促すなど、積極的な採用の働きかけが継続して行うことにより、外国人教員割合が4.7%まで高まっている。目標の達成に向けて更なる取組を期待する。	3	◇ コロナ禍の代替策とはいえ、GDCやGPACなどの国際共修の経験も参考に、今後、COIL型教育の活用、拡充の可能性も検討してはどうかと思われる。 ◇ コロナ禍であっても、外国人教員比率は目標値の達成に向けて改善してきている。引き続き、向上することを期待する。
		3	◇ 外国人教員比率について、学長、国際化担当副学長より、各部局に対して外国人教員の能動的採用を促すなど、積極的な採用の働きかけが継続して行われる中、外国人教員割合が4.7%まで高まり、目標の5%以上に近づいている点が評価できる。引き続き、目標比率の達成に向けて採用が進むことが期待される。
		3	◇ 外国人教員比率、職員のTOEICスコア600点以上取得割合が徐々に高まっている。
		3	
		3	◎ TOEIC600点以上の職員比率が着実に向上している点を評価したい。 ◇ 外国人教員比率の目標(5%)達成に向けた取組み強化(形式的な達成とならぬよう留意)
		3	◎ TOEICスコア600点以上を取得している職員の割合を24.3%(正規職員では33.2%)に高め、中期計画(1-57)に掲げた、「TOEIC600点以上の職員比率【25%以上】」を達成した。

参考意見(案)

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置			
大項目 12 教育内容及び教育の成果等	小項目	主な取組	自己評価
	2-01	教育プログラムの開発・設計・実施、カリキュラムの見直し	A
	2-02	PDCA サイクルの各要素の強化、PBL に対する評価指標の検討・実施、PBL 成果報告書の作成	A
	2-03	アクティブ・ラーニングの積極的導入、教育の質の保証の可視化の推進	B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 12] 年度評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 外部レビューアや PBL 検討部会を活用し、PBL のテーマや活動の進め方、PBL 型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL 型教育に関する PDCA サイクルを継続した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 外部レビューアや PBL 検討部会を活用し、PBL のテーマや活動の進め方、PBL 型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL 型教育に関する PDCA サイクルを継続した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ 本大学院の特色である PBL による教育を常に PDCA を用いてブラッシュアップしている点、またほぼ全科目がアクティブラーニング化している状況、およびそこへ至る努力の積み重ねは高く評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ これまで積極的に推進してきた PBL について、担当教員、履修学生双方に行う複数の時点の調査から評価指標を検討し、改善を図ろうとしている点は評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ PBL 研究会において、PBL のテーマや PBL 活動の進め方、PBL 型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL 型教育に関する PDCA サイクルの仕組みの充実を図っている点が評価できる。 ◎ 2022 AIIT PBL プロジェクト成果発表会では、コロナ禍でオンライン開催となる中、PBL 外部レビューア及び PBL 検討部会委員の参加による外部からのフィードバックを得られる機会を維持するなど、学修効果の向上を図っている点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ AIIT PBL プロジェクト成果発表会実施及び成果報告書の作成・公開を継続している。 ◇ 各コースにおける能力ダイアグラムの構築とディプロマ・サブメントの発行は、教育の質保証と成果の可視化を体現し、大学院と学生のプレゼンスを高め、学生募集にも大きく貢献する。 ▲ 評価されているアクティブ・ラーニングは極めて高い導入率となっていることは評価される。一方、このレベルまで定着すると、導入しない科目についての導入しない理由の確認や、導入はしているもののその手法の見直しなどが必要であろう。自然と次期に向けて議論はなされているのではないかと考えられるが、簡単にでも良いので「必要に応じた検証と改善」内容の報告がされても良いと考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ PBL検討部会を年4回開催し、アクティブラーニング導入授業も93%超を維持。(PBLについては学外意見も取り入れ、PDCAサイクルが十分に機能している)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 担当教員・履修学生「双方の視点」から PBL 活動の評価を行った。 ◎ アクティブ・ラーニングを導入している授業科目の高い割合(昨年度に達成した 93.8%)を維持した。 ◎ ディプロマ・サブメントを発行し、修了生の学修成果を適切に提示することで、教育の質保証と成果の可視化を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明 (コメント)	2	◎ 本大学院の特色である PBL による教育を常に PDCA を用いてブラッシュアップしている点、またほぼ全科目がアクティブラーニング化している状況、およびそこへ至る努力の積み重ねは高く評価できる。	2	◎ これまで積極的に推進してきた PBL について、担当教員、履修学生双方に行う複数の時点の調査から評価指標を検討し、改善を図ろうとしている点は評価できる。	2	◎ PBL 研究会において、PBL のテーマや PBL 活動の進め方、PBL 型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL 型教育に関する PDCA サイクルの仕組みの充実を図っている点が評価できる。 ◎ 2022 AIIT PBL プロジェクト成果発表会では、コロナ禍でオンライン開催となる中、PBL 外部レビューア及び PBL 検討部会委員の参加による外部からのフィードバックを得られる機会を維持するなど、学修効果の向上を図っている点が評価できる。	2	◎ AIIT PBL プロジェクト成果発表会実施及び成果報告書の作成・公開を継続している。 ◇ 各コースにおける能力ダイアグラムの構築とディプロマ・サブメントの発行は、教育の質保証と成果の可視化を体現し、大学院と学生のプレゼンスを高め、学生募集にも大きく貢献する。 ▲ 評価されているアクティブ・ラーニングは極めて高い導入率となっていることは評価される。一方、このレベルまで定着すると、導入しない科目についての導入しない理由の確認や、導入はしているもののその手法の見直しなどが必要であろう。自然と次期に向けて議論はなされているのではないかと考えられるが、簡単にでも良いので「必要に応じた検証と改善」内容の報告がされても良いと考える。	3		2	◎ PBL検討部会を年4回開催し、アクティブラーニング導入授業も93%超を維持。(PBLについては学外意見も取り入れ、PDCAサイクルが十分に機能している)	2	◎ 担当教員・履修学生「双方の視点」から PBL 活動の評価を行った。 ◎ アクティブ・ラーニングを導入している授業科目の高い割合(昨年度に達成した 93.8%)を維持した。 ◎ ディプロマ・サブメントを発行し、修了生の学修成果を適切に提示することで、教育の質保証と成果の可視化を行った。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・ 外部レビューアや PBL 検討部会を活用し、PBL のテーマや活動の進め方、PBL 型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL 型教育に関する PDCA サイクルを継続した。																				
評定	評定説明 (コメント)																				
2	◎ 本大学院の特色である PBL による教育を常に PDCA を用いてブラッシュアップしている点、またほぼ全科目がアクティブラーニング化している状況、およびそこへ至る努力の積み重ねは高く評価できる。																				
2	◎ これまで積極的に推進してきた PBL について、担当教員、履修学生双方に行う複数の時点の調査から評価指標を検討し、改善を図ろうとしている点は評価できる。																				
2	◎ PBL 研究会において、PBL のテーマや PBL 活動の進め方、PBL 型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL 型教育に関する PDCA サイクルの仕組みの充実を図っている点が評価できる。 ◎ 2022 AIIT PBL プロジェクト成果発表会では、コロナ禍でオンライン開催となる中、PBL 外部レビューア及び PBL 検討部会委員の参加による外部からのフィードバックを得られる機会を維持するなど、学修効果の向上を図っている点が評価できる。																				
2	◎ AIIT PBL プロジェクト成果発表会実施及び成果報告書の作成・公開を継続している。 ◇ 各コースにおける能力ダイアグラムの構築とディプロマ・サブメントの発行は、教育の質保証と成果の可視化を体現し、大学院と学生のプレゼンスを高め、学生募集にも大きく貢献する。 ▲ 評価されているアクティブ・ラーニングは極めて高い導入率となっていることは評価される。一方、このレベルまで定着すると、導入しない科目についての導入しない理由の確認や、導入はしているもののその手法の見直しなどが必要であろう。自然と次期に向けて議論はなされているのではないかと考えられるが、簡単にでも良いので「必要に応じた検証と改善」内容の報告がされても良いと考える。																				
3																					
2	◎ PBL検討部会を年4回開催し、アクティブラーニング導入授業も93%超を維持。(PBLについては学外意見も取り入れ、PDCAサイクルが十分に機能している)																				
2	◎ 担当教員・履修学生「双方の視点」から PBL 活動の評価を行った。 ◎ アクティブ・ラーニングを導入している授業科目の高い割合(昨年度に達成した 93.8%)を維持した。 ◎ ディプロマ・サブメントを発行し、修了生の学修成果を適切に提示することで、教育の質保証と成果の可視化を行った。																				
参考意見																					
<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニングは、極めて高い導入率となっていることは評価される。一方、導入しない科目についての理由や、導入はしているもののその手法の見直しなどの確認が必要と考える。 																					

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置			
大項目 13 教育の実施体制等 【産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備、都立大及び高専との連携】	小項目	主な取組	自己評価
	2-04	産業界のニーズの教育体制への反映、PDCA サイクルの各要素の強化、教育環境の整備	S
	2-05	他大学等との連携による教育の普及、関係機関との連携強化・交流促進	A
	2-06	高専出身者の確保、産技高専との連携強化、2大学1高専の連携	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 13] 年度評価																							
評価素案	委員別評定等																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td> 優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の補助事業により、学内の教室からの参加者とオンライン参加者のコラボレーションを円滑にするツールを各教室に導入するなど、学修環境の充実を推進した。また、本事業の成果発表の一環として、他大学と連携した公開 FD フォーラムを開催し、デジタルを活用した教育の高度化に関する知見を共有した。 ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定に基づき、国際シンポジウムを実施するなど、教育成果等に関する情報を共有した。 産技高専との共同研究を推進するとともに、同校専攻科生のインターンシップを受け入れ、受入学生が学会発表を行うなど、産技高専との連携を強化した。 </td> </tr> <tr> <td>◇</td> <td> 更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> 産技高専を含む高専からの令和4(2022)年度の入学者がいなかったことから、産技高専との連携を加速する取組を期待したい。 </td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明	◎	優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の補助事業により、学内の教室からの参加者とオンライン参加者のコラボレーションを円滑にするツールを各教室に導入するなど、学修環境の充実を推進した。また、本事業の成果発表の一環として、他大学と連携した公開 FD フォーラムを開催し、デジタルを活用した教育の高度化に関する知見を共有した。 ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定に基づき、国際シンポジウムを実施するなど、教育成果等に関する情報を共有した。 産技高専との共同研究を推進するとともに、同校専攻科生のインターンシップを受け入れ、受入学生が学会発表を行うなど、産技高専との連携を強化した。 	◇	更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> 産技高専を含む高専からの令和4(2022)年度の入学者がいなかったことから、産技高専との連携を加速する取組を期待したい。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ 学生の主体が社会人であることを鑑みて、オンライン教育を充実させ、また FD 活動も他大学と連携している取り組みは評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 他大学等との新たな3つ以上の連携事業を実施する目標を達成した。特に、文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」では、学内のネットワーク環境の強化、連携校との技能教育のためのデジタルコンテンツの開発と共有、また、学内および公開の FD フォーラムを開催して本事業の成果を広く還元するなど、積極的に取り組んだ。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」により、オンラインと対面を組み合わせた授業が実施可能な教室整備が推進され、オンラインでも対面と同品質で授業が受講可能となるなど、学修環境の充実が図られている点が評価できる。 ◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に採択され、高専との連携に加え、公立小松大学や宮城大学と個別協定を締結して、「技能教育高度化のための共創的学習プラットフォームの構築」に向けた連携体制を構築したほか、5大学1高専において作成した技能教育のためのデジタルコンテンツを共通のプラットフォームで共有し、利用可能な試行体制を構築する等、デジタルトランスフォーメーションに向けて、連携体制を構築しながら取組を推進している点が評価できる。公開 FD フォーラムを開催により、広く成果の発表も行われている。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎ 文科省の補助を得た「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業について、成果が表れ始めている。 ◇ 文科省の補助を得た「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業については、このコロナ禍を経験して、本学こそが教育界のリーダーという自負で成果をとりまとめて頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 大学改革推進等補助金の実行され、事業展開できたことは評価できる。もう少し具体的な事業についての内容が把握できるとなお良い。専門性を活かした内容だと考えるので、さらに成果を上げていただきたい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ インドネシア、品川区など包括協定に基づいた新たな連携事業の実施を評価。 ◇ インドネシア以外の包括協定先との連携事業にも取組み、実績を挙げて頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定における連携事業を実施し、共同研究をベースとした論文(25編以上)を作成し、その多くが発表された。 ◎ 産技高専専攻科とのインターンシップを行い、受け入れた学生が学会発表を行った。 ◇ 産技高専を含む高専からの令和4(2022)年度の入学者がなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	2	◎ 学生の主体が社会人であることを鑑みて、オンライン教育を充実させ、また FD 活動も他大学と連携している取り組みは評価できる。	2	◎ 他大学等との新たな3つ以上の連携事業を実施する目標を達成した。特に、文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」では、学内のネットワーク環境の強化、連携校との技能教育のためのデジタルコンテンツの開発と共有、また、学内および公開の FD フォーラムを開催して本事業の成果を広く還元するなど、積極的に取り組んだ。	1	◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」により、オンラインと対面を組み合わせた授業が実施可能な教室整備が推進され、オンラインでも対面と同品質で授業が受講可能となるなど、学修環境の充実が図られている点が評価できる。 ◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に採択され、高専との連携に加え、公立小松大学や宮城大学と個別協定を締結して、「技能教育高度化のための共創的学習プラットフォームの構築」に向けた連携体制を構築したほか、5大学1高専において作成した技能教育のためのデジタルコンテンツを共通のプラットフォームで共有し、利用可能な試行体制を構築する等、デジタルトランスフォーメーションに向けて、連携体制を構築しながら取組を推進している点が評価できる。公開 FD フォーラムを開催により、広く成果の発表も行われている。	1	◎ 文科省の補助を得た「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業について、成果が表れ始めている。 ◇ 文科省の補助を得た「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業については、このコロナ禍を経験して、本学こそが教育界のリーダーという自負で成果をとりまとめて頂きたい。	2	◎ 大学改革推進等補助金の実行され、事業展開できたことは評価できる。もう少し具体的な事業についての内容が把握できるとなお良い。専門性を活かした内容だと考えるので、さらに成果を上げていただきたい。	2	◎ インドネシア、品川区など包括協定に基づいた新たな連携事業の実施を評価。 ◇ インドネシア以外の包括協定先との連携事業にも取組み、実績を挙げて頂きたい。	2	◎ ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定における連携事業を実施し、共同研究をベースとした論文(25編以上)を作成し、その多くが発表された。 ◎ 産技高専専攻科とのインターンシップを行い、受け入れた学生が学会発表を行った。 ◇ 産技高専を含む高専からの令和4(2022)年度の入学者がなかった。
評定	評定説明																						
◎	優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の補助事業により、学内の教室からの参加者とオンライン参加者のコラボレーションを円滑にするツールを各教室に導入するなど、学修環境の充実を推進した。また、本事業の成果発表の一環として、他大学と連携した公開 FD フォーラムを開催し、デジタルを活用した教育の高度化に関する知見を共有した。 ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定に基づき、国際シンポジウムを実施するなど、教育成果等に関する情報を共有した。 産技高専との共同研究を推進するとともに、同校専攻科生のインターンシップを受け入れ、受入学生が学会発表を行うなど、産技高専との連携を強化した。 																						
◇	更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> 産技高専を含む高専からの令和4(2022)年度の入学者がいなかったことから、産技高専との連携を加速する取組を期待したい。 																						
評定	評定説明(コメント)																						
2	◎ 学生の主体が社会人であることを鑑みて、オンライン教育を充実させ、また FD 活動も他大学と連携している取り組みは評価できる。																						
2	◎ 他大学等との新たな3つ以上の連携事業を実施する目標を達成した。特に、文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」では、学内のネットワーク環境の強化、連携校との技能教育のためのデジタルコンテンツの開発と共有、また、学内および公開の FD フォーラムを開催して本事業の成果を広く還元するなど、積極的に取り組んだ。																						
1	◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」により、オンラインと対面を組み合わせた授業が実施可能な教室整備が推進され、オンラインでも対面と同品質で授業が受講可能となるなど、学修環境の充実が図られている点が評価できる。 ◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に採択され、高専との連携に加え、公立小松大学や宮城大学と個別協定を締結して、「技能教育高度化のための共創的学習プラットフォームの構築」に向けた連携体制を構築したほか、5大学1高専において作成した技能教育のためのデジタルコンテンツを共通のプラットフォームで共有し、利用可能な試行体制を構築する等、デジタルトランスフォーメーションに向けて、連携体制を構築しながら取組を推進している点が評価できる。公開 FD フォーラムを開催により、広く成果の発表も行われている。																						
1	◎ 文科省の補助を得た「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業について、成果が表れ始めている。 ◇ 文科省の補助を得た「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業については、このコロナ禍を経験して、本学こそが教育界のリーダーという自負で成果をとりまとめて頂きたい。																						
2	◎ 大学改革推進等補助金の実行され、事業展開できたことは評価できる。もう少し具体的な事業についての内容が把握できるとなお良い。専門性を活かした内容だと考えるので、さらに成果を上げていただきたい。																						
2	◎ インドネシア、品川区など包括協定に基づいた新たな連携事業の実施を評価。 ◇ インドネシア以外の包括協定先との連携事業にも取組み、実績を挙げて頂きたい。																						
2	◎ ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定における連携事業を実施し、共同研究をベースとした論文(25編以上)を作成し、その多くが発表された。 ◎ 産技高専専攻科とのインターンシップを行い、受け入れた学生が学会発表を行った。 ◇ 産技高専を含む高専からの令和4(2022)年度の入学者がなかった。																						
参考意見(案)																							

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置			
大項目 14 教育の実施体制等 【教育の評価・改善】	小項目	主な取組	自己評価
	2-07	PDCA サイクルによるマネジメント機能の強化、アクティブ・ラーニングの積極的導入、授業評価結果の改善と研究会の枠組みの構築、FD フォーラムの開催による教育の質の向上	A
	2-08	機関別認証評価の受審結果を踏まえた改善策検討、情報アーキテクチャ専攻の分野別認証評価の受審結果を踏まえた改善策検討、創造技術専攻・産業技術専攻の分野別認証評価の受審準備	B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 14] 年度評価																					
評価素案 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 教育の DX やオンライン授業をテーマに、FD フォーラムを開催し、教員の参加率 100%を維持した。 ・ 学生向けの授業評価アンケートを行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、引き続き、全授業の評価平均は 4.35 と、高水準を維持している。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。 </td> </tr> </table> 参考意見 (案) ・ 中期計画である「自己点検・評価活動における PDCA サイクルによるマネジメント強化」について、「P」の部分だけでなく、早く「D」や「C」に着手すること。	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 教育の DX やオンライン授業をテーマに、FD フォーラムを開催し、教員の参加率 100%を維持した。 ・ 学生向けの授業評価アンケートを行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、引き続き、全授業の評価平均は 4.35 と、高水準を維持している。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。	委員別評定等 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 「東京都立産業技術大学院大学内部質保証システム実施要綱」を制定し、11 の PDCA サイクルを定め、組織的に対応する方策や体制を具体的に検討し、定めた点が評価できる。 ◎ 学生向けの授業評価アンケートをクォータごとに行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、学生授業評価アンケート結果は、引き続き、中期計画目標の平均4以上(4.35)を維持している。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>▲ 中期計画である「自己点検・評価活動における PDCA サイクルによるマネジメント強化」だが、この目標自体は、PDCA の「P」の部分とは思われるが、早く「Do」や「Check」も行ってみたいと、優れた「Plan」に進化しないと思われる。正に、早く PDCA を回す。実質的にはそれが行われているなら、その一部でも簡潔にご報告いただく、ということが求められているように思う。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ対策下の制約にもかかわらず初年度からFDフォーラム教員参加100%を継続。(こうした取組みが授業評価アンケートの好結果につながっているものと史料)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 前年度に引き続き、FD フォーラムへの教員の参加率 100%を維持した。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果で高い評価を維持した。</td> </tr> </table>	評定	評定説明 (コメント)	3		3	◇ 内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。	2	◎ 「東京都立産業技術大学院大学内部質保証システム実施要綱」を制定し、11 の PDCA サイクルを定め、組織的に対応する方策や体制を具体的に検討し、定めた点が評価できる。 ◎ 学生向けの授業評価アンケートをクォータごとに行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、学生授業評価アンケート結果は、引き続き、中期計画目標の平均4以上(4.35)を維持している。	3	▲ 中期計画である「自己点検・評価活動における PDCA サイクルによるマネジメント強化」だが、この目標自体は、PDCA の「P」の部分とは思われるが、早く「Do」や「Check」も行ってみたいと、優れた「Plan」に進化しないと思われる。正に、早く PDCA を回す。実質的にはそれが行われているなら、その一部でも簡潔にご報告いただく、ということが求められているように思う。	3		2	◎ コロナ対策下の制約にもかかわらず初年度からFDフォーラム教員参加100%を継続。(こうした取組みが授業評価アンケートの好結果につながっているものと史料)	3	◎ 前年度に引き続き、FD フォーラムへの教員の参加率 100%を維持した。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果で高い評価を維持した。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・ 教育の DX やオンライン授業をテーマに、FD フォーラムを開催し、教員の参加率 100%を維持した。 ・ 学生向けの授業評価アンケートを行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、引き続き、全授業の評価平均は 4.35 と、高水準を維持している。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。																				
評定	評定説明 (コメント)																				
3																					
3	◇ 内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。																				
2	◎ 「東京都立産業技術大学院大学内部質保証システム実施要綱」を制定し、11 の PDCA サイクルを定め、組織的に対応する方策や体制を具体的に検討し、定めた点が評価できる。 ◎ 学生向けの授業評価アンケートをクォータごとに行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、学生授業評価アンケート結果は、引き続き、中期計画目標の平均4以上(4.35)を維持している。																				
3	▲ 中期計画である「自己点検・評価活動における PDCA サイクルによるマネジメント強化」だが、この目標自体は、PDCA の「P」の部分とは思われるが、早く「Do」や「Check」も行ってみたいと、優れた「Plan」に進化しないと思われる。正に、早く PDCA を回す。実質的にはそれが行われているなら、その一部でも簡潔にご報告いただく、ということが求められているように思う。																				
3																					
2	◎ コロナ対策下の制約にもかかわらず初年度からFDフォーラム教員参加100%を継続。(こうした取組みが授業評価アンケートの好結果につながっているものと史料)																				
3	◎ 前年度に引き続き、FD フォーラムへの教員の参加率 100%を維持した。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果で高い評価を維持した。																				

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置			
大項目 15 学生への支援	小項目	主な取組	自己評価
	2-09	効率的な学修環境の提供、効率的な学修環境の提供、学修コミュニティの更なる充実、AIIT シニアスタートアッププログラムの実施	A
	2-10	多様な学生にきめ細かに対応したキャリア開発支援の実施	B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 15] 年度評価																							
<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うなど、コロナ禍においても、きめ細かな学生支援を行った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◇更なる充実が期待される点 ・ 卒業後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」について、卒業生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーキング促進に期待する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うなど、コロナ禍においても、きめ細かな学生支援を行った。		◇更なる充実が期待される点 ・ 卒業後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」について、卒業生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーキング促進に期待する。	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ コロナ禍にある中、引き続き、担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うことなどが、学生個々の学修に対するモチベーション維持・向上につながっていると考えられる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 卒業後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」の設置を評価する。卒業生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーキング促進の機能も備えるとより望ましいのではないかとはいえ、あまりコスト、手間は掛けられないので、WEB、オンラインを活用した自主的運営要素が強いやり方になるのかと考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ コロナ対策下の制約にもかかわらず、1年生「全員」への面談を継続していることを評価。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ PBL 履修学生に対し、PBL 外部レビューア(認定登録講師、産技大修了生及び産業界の専門家)からの指導・助言等を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		3		3	◎ コロナ禍にある中、引き続き、担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うことなどが、学生個々の学修に対するモチベーション維持・向上につながっていると考えられる。	3	◇ 卒業後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」の設置を評価する。卒業生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーキング促進の機能も備えるとより望ましいのではないかとはいえ、あまりコスト、手間は掛けられないので、WEB、オンラインを活用した自主的運営要素が強いやり方になるのかと考える。	3		3	◎ コロナ対策下の制約にもかかわらず、1年生「全員」への面談を継続していることを評価。	3	◎ PBL 履修学生に対し、PBL 外部レビューア(認定登録講師、産技大修了生及び産業界の専門家)からの指導・助言等を行った。
評定	評定説明																						
	◎優れた点・特色ある点 ・ 担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うなど、コロナ禍においても、きめ細かな学生支援を行った。																						
	◇更なる充実が期待される点 ・ 卒業後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」について、卒業生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーキング促進に期待する。																						
評定	評定説明(コメント)																						
3																							
3																							
3	◎ コロナ禍にある中、引き続き、担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うことなどが、学生個々の学修に対するモチベーション維持・向上につながっていると考えられる。																						
3	◇ 卒業後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」の設置を評価する。卒業生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーキング促進の機能も備えるとより望ましいのではないかとはいえ、あまりコスト、手間は掛けられないので、WEB、オンラインを活用した自主的運営要素が強いやり方になるのかと考える。																						
3																							
3	◎ コロナ対策下の制約にもかかわらず、1年生「全員」への面談を継続していることを評価。																						
3	◎ PBL 履修学生に対し、PBL 外部レビューア(認定登録講師、産技大修了生及び産業界の専門家)からの指導・助言等を行った。																						

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

大項目 16 入学者選抜	小項目	主な取組	自己評価
	2-11	積極的な情報発信、単位バンク生の更なる確保と正規入学に向けたアプローチ、大学院説明会への参加者確保、ターゲットを絞った新たな広報手段の検討	S

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 16] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院及び研究科紹介動画やコース紹介動画等、新たな動画コンテンツを充実させ、積極的な情報発信により、大学院説明会には前年度を上回る379名が参加し、令和4年度4月入学における産業技術専攻全体の志願倍率は、過去最高値に近い1.63倍に達している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位バンク生の登録者数及び単位バンク生からの入学者数がともに増加傾向にあり、入学者の確保に寄与した。今後は、単位バンクの登録、単位バンクを利用した入学者数をさらに拡充していくための取組を期待する。 	2	◎ 単位バンク制度が機能して入学者の確保に寄与したことは評価できる。
		2	◎ 積極的な情報発信により、大学院説明会には前年度を上回る379名が参加し、令和4年度4月入学における産業技術専攻全体の志願倍率は1.63倍に達している。
		1	◎ 積極的な情報発信、広報活動により、令和4(2022)年度4月入学の志願倍率は1.63倍となり、コロナ禍にありながら定員に対し、十分な充足率を保つことができています。 ◎ 単位バンク生の登録者数が令和2年度の104名から令和3年度には125名に拡大しているとともに、単位バンク生から21名の入学者があるなど、社会人が学びやすい環境を整えるとともに、さらに高度な専門性を習得する意欲にもつなげている点が評価できる。
		2	◇ 長年の広報活動の成果が出て、継続して志願者が増えてきたことは高く評価される。働き方改革の流れ、コロナ禍における働き方の変化なども、本学にとっては追い風であろうことから、説明会参加者、入学者の志望動機、目標などを、引続ききめ細かくチェックして、社会のニーズを的確に捉えるようにしていきたい。
		3	◇ 自己評価はSとなっているが、年度計画を大幅に上回っているかどうかの判断がつかない。
		1	◎ オンラインのみでの大学院説明にもかかわらず、400名近い参加者を確保したこと。 ◎ コロナ対策下にもかかわらず、ほぼ例年通りの志願者・入学者を確保したこと。 ◇ 単位バンク生の登録、入学者をさらに拡充していくための取組を期待したい。
		1	◎ オンライン大学院説明会への参加者が379名あった。 ◎ 専攻全体の志願倍率はコロナ禍においても1.63倍であり、入学者数においても十分な定員を確保することができた。
参考意見(案)			

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目 17 研究	小項目	主な取組	自己評価
	2-12	PBL型教育の研究、アクティブ・ラーニングの積極的導入、	B
	2-13	高度専門職人材育成に関する教育研究の成果の発信、教学 IR の体制構築	A
	2-14	研究所の的確な運営、産業振興に資する教育研究の更なる推進	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 17] 年度評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・引き続きオンラインを活用し、PBL 研究会を開催し、教員の参加率 100%を達成している。 ・研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする専攻横断型の研究所を新たに2つ設置し、計9研究所を運営することにより、産業振興に資する開発型研究の推進につなげた。 ◇更なる充実が期待される点 ・既存データによる志願者分析や専門職人材育成の従事者の招聘など、IR 活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。 </td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明		◎ 優れた点・特色ある点 ・引き続きオンラインを活用し、PBL 研究会を開催し、教員の参加率 100%を達成している。 ・研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする専攻横断型の研究所を新たに2つ設置し、計9研究所を運営することにより、産業振興に資する開発型研究の推進につなげた。 ◇ 更なる充実が期待される点 ・既存データによる志願者分析や専門職人材育成の従事者の招聘など、IR 活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 教育方法の研究に特化し、それを教育実務に活用している点に特徴がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 既存データによる志願者分析や専門職人材育成の従事者の招聘など、IR 活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 専攻横断型の研究所について、新たに2つの研究所を新設し、計9研究所の運営が行われており、中期計画の4以上の目標を引き続き維持している。設置期間が令和3年度までの4研究所も期間延長が承認され、令和4年度からは 11 研究所の活動が予定されており、活発な研究活動が行われている点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする各種研究所の設置と、その興隆は喜ばしい。研究者の研究の活性化は、言うまでもなく、学生への教育にも大きなプラス・刺激材料となるので、より重視されるべき活動と言える。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 専攻横断・学際的な研究所を当初目標の4を大きく上回る9運営したことを高く評価。 ◎ 2年連続してPBL研究会への教員参加が100%となっていることを評価したい。 ◇ 「研究成果」としてのPBLに関する情報発信を強化していただきたい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ オンライン開催の PBL 研究会に全教員が参加した。 ◎ 特任教員を配置したことで、IR 機能が推進された。 ◎ 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を2件新設し、計9研究所の運営を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明 (コメント)	3	◎ 教育方法の研究に特化し、それを教育実務に活用している点に特徴がある。	3	◇ 既存データによる志願者分析や専門職人材育成の従事者の招聘など、IR 活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。	3	◎ 専攻横断型の研究所について、新たに2つの研究所を新設し、計9研究所の運営が行われており、中期計画の4以上の目標を引き続き維持している。設置期間が令和3年度までの4研究所も期間延長が承認され、令和4年度からは 11 研究所の活動が予定されており、活発な研究活動が行われている点も評価できる。	2	◎ 研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする各種研究所の設置と、その興隆は喜ばしい。研究者の研究の活性化は、言うまでもなく、学生への教育にも大きなプラス・刺激材料となるので、より重視されるべき活動と言える。	3		3	◎ 専攻横断・学際的な研究所を当初目標の4を大きく上回る9運営したことを高く評価。 ◎ 2年連続してPBL研究会への教員参加が100%となっていることを評価したい。 ◇ 「研究成果」としてのPBLに関する情報発信を強化していただきたい。	2	◎ オンライン開催の PBL 研究会に全教員が参加した。 ◎ 特任教員を配置したことで、IR 機能が推進された。 ◎ 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を2件新設し、計9研究所の運営を行った。
評定	評定説明																				
	◎ 優れた点・特色ある点 ・引き続きオンラインを活用し、PBL 研究会を開催し、教員の参加率 100%を達成している。 ・研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする専攻横断型の研究所を新たに2つ設置し、計9研究所を運営することにより、産業振興に資する開発型研究の推進につなげた。 ◇ 更なる充実が期待される点 ・既存データによる志願者分析や専門職人材育成の従事者の招聘など、IR 活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。																				
評定	評定説明 (コメント)																				
3	◎ 教育方法の研究に特化し、それを教育実務に活用している点に特徴がある。																				
3	◇ 既存データによる志願者分析や専門職人材育成の従事者の招聘など、IR 活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。																				
3	◎ 専攻横断型の研究所について、新たに2つの研究所を新設し、計9研究所の運営が行われており、中期計画の4以上の目標を引き続き維持している。設置期間が令和3年度までの4研究所も期間延長が承認され、令和4年度からは 11 研究所の活動が予定されており、活発な研究活動が行われている点も評価できる。																				
2	◎ 研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする各種研究所の設置と、その興隆は喜ばしい。研究者の研究の活性化は、言うまでもなく、学生への教育にも大きなプラス・刺激材料となるので、より重視されるべき活動と言える。																				
3																					
3	◎ 専攻横断・学際的な研究所を当初目標の4を大きく上回る9運営したことを高く評価。 ◎ 2年連続してPBL研究会への教員参加が100%となっていることを評価したい。 ◇ 「研究成果」としてのPBLに関する情報発信を強化していただきたい。																				
2	◎ オンライン開催の PBL 研究会に全教員が参加した。 ◎ 特任教員を配置したことで、IR 機能が推進された。 ◎ 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を2件新設し、計9研究所の運営を行った。																				
参考意見 (案)																					

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

大項目 18 都政との連携	小項目	主な取組	自己評価
	2-15	都や区市町村への政策課題に対する支援	A
	2-16	都・区市町村等への研修実施等を通じた人材育成支援	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 18] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
	◎ 優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> 都・区市町村等の職員向け研修や公開講座について、特に研修機会が少ないと思われる島しょ地域に対して、オンラインでの研修を開催するなど、着実に自治体の職員の育成に貢献している。 東京都の「大学研究者による事業提案制度」において、産技大教員が申請した「東京都地域防災計画の IoD (Internet of Documents) 化による防災力向上」が採択された。
	◇ 更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> 都や区市町村等への政策課題支援、職員向けの研修・公開講座への潜在的ニーズは大きいと思われるので、丁寧に掘り起こしていくとともに、知名度の向上や情報発信の強化に取り組むことを期待する。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
3	
3	◎ 都や区、団体等が開催する講座やイベントへの参加、開催を通じて、中小企業振興への貢献を図っている。引き続き、都や区市町村が抱える政策課題の解決に資する取組が推進されることが期待される。 ◎ 都・区市町村等の職員向けの研修講座や公開講座について、中期計画の目標の10講座を上回る11講座が開催されている。特に研修機会が少ないと思われる島しょ地域に向けてオンライン研修が行われている。
2	◎ 「大学研究者による事業提案制度」で、防災力向上事業が東京都から採択されたことは高く評価される。 ◇ 都の区市町村職員向けの研修講座、公開講座への潜在的ニーズは大きいと思われるので、丁寧に掘り起こしていき、行政への貢献と研究進化に役立てたい。
3	
3	◎ 品川区との包括協定を含め、複数の自治体と着実な連携支援の関係を構築していること。 ◇ 東京都や市区町村等への政策課題支援、職員向け研修の実績を拡充して頂きたい。(自治体向けの研修・公開講座10の内、東京都下の自治体は6)実績を伸ばしていくためには知名度向上・情報発信の取組み強化も肝要と考える。
2	◎ 東京都「大学研究者による事業提案制度(大学提案)」に、木下修司助教が申請した事業「東京都地域防災計画の IoD (Internet of Documents) 化による防災力向上」が採択され、令和4(2022)年度東京都予算に反映された。 ◎ 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座を、中期計画(2-16)の設定【年間10講座】を超えた11講座を開講した。

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置		(2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置	
大項目 19 社会貢献等	小項目	主な取組			自己評価
	2-17	産業振興施策への貢献、中小企業支援の実施、AIIT シニアスタートアッププログラム実施に伴う連携			B
	2-18	学修コミュニティの更なる充実、修了生の支援の充実、社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場の提供			A
	2-18-2	AIIT シニアスタートアッププログラムの実施			A

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 19】年度評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・前年度に続き、AIIT フォーラムをオンライン形式で実施することにより、対面では対象とならなかった地域からの申込みがあった。さらに、1講座については、再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、幅広い地域貢献につながった。 ・AIIT シニアスタートアッププログラムからは 14 名、健康寿命デザイン講座からは 10 名の修了生をそれぞれ輩出するなど、社会人に多様な学びの機会を提供した。 ◇更なる充実が期待される点 ・AIIT フォーラムについて、認知度を向上に向け、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。また、実施回数増加についても検討されたい。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・前年度に続き、AIIT フォーラムをオンライン形式で実施することにより、対面では対象とならなかった地域からの申込みがあった。さらに、1講座については、再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、幅広い地域貢献につながった。 ・AIIT シニアスタートアッププログラムからは 14 名、健康寿命デザイン講座からは 10 名の修了生をそれぞれ輩出するなど、社会人に多様な学びの機会を提供した。 ◇更なる充実が期待される点 ・AIIT フォーラムについて、認知度を向上に向け、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。また、実施回数増加についても検討されたい。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ AIIT フォーラムやシニアスタートアッププログラムが順調に運営されて成功している点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 前年度に続き、AIIT フォーラムをオンライン形式で計 6 回開催し、遠隔地を含めて延べ 1,151 人の参加(視聴)があった。さらにこのうちの 1 回は再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、地域貢献のニーズに資するものであった。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ AIIT フォーラムを計6回開催し、1,151 人の延べ参加者数(視聴者数)があり、再配信の希望が寄せられたフォーラム(認知症を観る・診る・看る)があるなど、魅力的な講座が展開されている点が評価できる。三鷹ネットワーク大学の公開講座の実施につながり、地域貢献に資す活動の充実が図られている。 ◎ 履修証明プログラムとして、AIIT シニアスタートアッププログラム及び「健康寿命デザイン講座」を開講し、社会人に対する学び直しの場を提供しており、コロナ禍にある中、オンライン等を活用し、受講者数は、令和2年度の 12 名から令和3年度には 31 名まで受講者数が回復している点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ AIIT フォーラムは好プログラムで好評を博しているが、更に認知度を増して、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ リカレント教育ニーズを踏まえたセミナー・公開講座を通じて社会貢献を行ったこと。また、連携には至らなかったが商工会議所を通じた中小企業支援への取組みを高く評価。 ◎ コロナ対策の制約下で昨年引き続き 1000 人超の AIIT フォーラム参加者を獲得したこと。 ◇ AIIT シニアスタートアッププログラムを産技大学院の「看板メニュー」の一つとして育てていただきたい(重点的なりソース投入も必要と考える)。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ オンラインにより計 6 回の AIIT フォーラムを開催し、一都三県のみならず北海道などの遠隔地からの申込みがあり、1,151 人の延べ参加者があった。 ◎ AIIT シニアスタートアッププログラムからは 14 名、健康寿命デザイン講座からは 10 名の修了生をそれぞれ輩出した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明 (コメント)	2	◎ AIIT フォーラムやシニアスタートアッププログラムが順調に運営されて成功している点が評価できる。	2	◎ 前年度に続き、AIIT フォーラムをオンライン形式で計 6 回開催し、遠隔地を含めて延べ 1,151 人の参加(視聴)があった。さらにこのうちの 1 回は再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、地域貢献のニーズに資するものであった。	2	◎ AIIT フォーラムを計6回開催し、1,151 人の延べ参加者数(視聴者数)があり、再配信の希望が寄せられたフォーラム(認知症を観る・診る・看る)があるなど、魅力的な講座が展開されている点が評価できる。三鷹ネットワーク大学の公開講座の実施につながり、地域貢献に資す活動の充実が図られている。 ◎ 履修証明プログラムとして、AIIT シニアスタートアッププログラム及び「健康寿命デザイン講座」を開講し、社会人に対する学び直しの場を提供しており、コロナ禍にある中、オンライン等を活用し、受講者数は、令和2年度の 12 名から令和3年度には 31 名まで受講者数が回復している点が評価できる。	3	◇ AIIT フォーラムは好プログラムで好評を博しているが、更に認知度を増して、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。	3		2	◎ リカレント教育ニーズを踏まえたセミナー・公開講座を通じて社会貢献を行ったこと。また、連携には至らなかったが商工会議所を通じた中小企業支援への取組みを高く評価。 ◎ コロナ対策の制約下で昨年引き続き 1000 人超の AIIT フォーラム参加者を獲得したこと。 ◇ AIIT シニアスタートアッププログラムを産技大学院の「看板メニュー」の一つとして育てていただきたい(重点的なりソース投入も必要と考える)。	2	◎ オンラインにより計 6 回の AIIT フォーラムを開催し、一都三県のみならず北海道などの遠隔地からの申込みがあり、1,151 人の延べ参加者があった。 ◎ AIIT シニアスタートアッププログラムからは 14 名、健康寿命デザイン講座からは 10 名の修了生をそれぞれ輩出した。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・前年度に続き、AIIT フォーラムをオンライン形式で実施することにより、対面では対象とならなかった地域からの申込みがあった。さらに、1講座については、再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、幅広い地域貢献につながった。 ・AIIT シニアスタートアッププログラムからは 14 名、健康寿命デザイン講座からは 10 名の修了生をそれぞれ輩出するなど、社会人に多様な学びの機会を提供した。 ◇更なる充実が期待される点 ・AIIT フォーラムについて、認知度を向上に向け、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。また、実施回数増加についても検討されたい。																				
評定	評定説明 (コメント)																				
2	◎ AIIT フォーラムやシニアスタートアッププログラムが順調に運営されて成功している点が評価できる。																				
2	◎ 前年度に続き、AIIT フォーラムをオンライン形式で計 6 回開催し、遠隔地を含めて延べ 1,151 人の参加(視聴)があった。さらにこのうちの 1 回は再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、地域貢献のニーズに資するものであった。																				
2	◎ AIIT フォーラムを計6回開催し、1,151 人の延べ参加者数(視聴者数)があり、再配信の希望が寄せられたフォーラム(認知症を観る・診る・看る)があるなど、魅力的な講座が展開されている点が評価できる。三鷹ネットワーク大学の公開講座の実施につながり、地域貢献に資す活動の充実が図られている。 ◎ 履修証明プログラムとして、AIIT シニアスタートアッププログラム及び「健康寿命デザイン講座」を開講し、社会人に対する学び直しの場を提供しており、コロナ禍にある中、オンライン等を活用し、受講者数は、令和2年度の 12 名から令和3年度には 31 名まで受講者数が回復している点が評価できる。																				
3	◇ AIIT フォーラムは好プログラムで好評を博しているが、更に認知度を増して、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。																				
3																					
2	◎ リカレント教育ニーズを踏まえたセミナー・公開講座を通じて社会貢献を行ったこと。また、連携には至らなかったが商工会議所を通じた中小企業支援への取組みを高く評価。 ◎ コロナ対策の制約下で昨年引き続き 1000 人超の AIIT フォーラム参加者を獲得したこと。 ◇ AIIT シニアスタートアッププログラムを産技大学院の「看板メニュー」の一つとして育てていただきたい(重点的なりソース投入も必要と考える)。																				
2	◎ オンラインにより計 6 回の AIIT フォーラムを開催し、一都三県のみならず北海道などの遠隔地からの申込みがあり、1,151 人の延べ参加者があった。 ◎ AIIT シニアスタートアッププログラムからは 14 名、健康寿命デザイン講座からは 10 名の修了生をそれぞれ輩出した。																				
参考意見 (案)																					

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置			
大項目 20 グローバル化	小項目	主な取組	自己評価
	2-19	グローバル人材の育成、グローバル人材として獲得すべき能力指標の活用	A
	2-20	アジア諸国等の大学との連携	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 20] 年度評価																					
評価素案 <table border="1"> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> <tr> <td></td> <td> ◎優れた点・特色ある点 ・ 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、その教育効果により、能力指標の基準を満たす学生の割合が90%を超えるなど、目標値を上回った。 ・ グローバルに活躍できる高度専門職業人を育成するため、SDGsをテーマに、アジア・アフリカ等、多様な地域と連携したオンラインPBLを実施した。 ・ 渡航制限がある中で、アジア諸国の大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流・連携の強化を図った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ グローバルPBLについては、コロナ禍においても、様々な工夫を図っているが、オンラインの利便性を活かし、今後一層の拡充を期待する。 </td> </tr> </table>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、その教育効果により、能力指標の基準を満たす学生の割合が90%を超えるなど、目標値を上回った。 ・ グローバルに活躍できる高度専門職業人を育成するため、SDGsをテーマに、アジア・アフリカ等、多様な地域と連携したオンラインPBLを実施した。 ・ 渡航制限がある中で、アジア諸国の大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流・連携の強化を図った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ グローバルPBLについては、コロナ禍においても、様々な工夫を図っているが、オンラインの利便性を活かし、今後一層の拡充を期待する。	委員別評定等 <table border="1"> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル人材の能力指標をクリアしている学生がKPIを超える取り組みを行っていることを評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が目標値を上回り、90.3%になった。 ◇ 参加者数は限られているが、学生からの公募によるデジタルSDGsプロジェクト案に基づき、海外と共同でオンラインを活用したPBLを実施している。コロナ禍の代替策としてだけでなく、国際共修の一つの形として、今後の拡充の可能性も検討してはどうかと思われる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍ではあるが、オンラインを活用して海外と共同でPBLを行い、グローバル人材の育成を図った点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍の中で、SDGsについての、オンライン活用による海外との共同研究を実施できたことは、グローバル人材育成に関する成果である。 ◎ コロナ禍において制約のある中で、アジア諸大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流を絶やさなかったことは、今まで培ってきた連携を強化するものとして評価される。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル人材の能力指標を満たす学生が、目標値8割だったところ90%を超えた事は素晴らしい。基準について、独自のものなのかグローバルなものなのか含めて記載をしていただけるとなお良い。見逃しているかもしれませんが。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル人材の能力指標を満たす学生が「修了時に」9割を超えたことを高く評価。 ◎ グローバル人材育成に向けたデジタルSDGsをアジア・アフリカ5ヶ国で実施したこと。 ◎ コロナ対策下の制約も多い中、アジア諸国の大学とオンラインセミナー等を開催したこと。 ◇ 人材育成などを通じた世界各国(五大陸)の大学・機関との連携強化をさらに拡充頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が、中期計画(2-19)の設定【8割】を上回る90.3%となった。</td> </tr> </table>	評定	評定説明(コメント)	2	◎ グローバル人材の能力指標をクリアしている学生がKPIを超える取り組みを行っていることを評価できる。	2	◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が目標値を上回り、90.3%になった。 ◇ 参加者数は限られているが、学生からの公募によるデジタルSDGsプロジェクト案に基づき、海外と共同でオンラインを活用したPBLを実施している。コロナ禍の代替策としてだけでなく、国際共修の一つの形として、今後の拡充の可能性も検討してはどうかと思われる。	2	◎ コロナ禍ではあるが、オンラインを活用して海外と共同でPBLを行い、グローバル人材の育成を図った点が評価できる。	2	◎ コロナ禍の中で、SDGsについての、オンライン活用による海外との共同研究を実施できたことは、グローバル人材育成に関する成果である。 ◎ コロナ禍において制約のある中で、アジア諸大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流を絶やさなかったことは、今まで培ってきた連携を強化するものとして評価される。	2	◎ グローバル人材の能力指標を満たす学生が、目標値8割だったところ90%を超えた事は素晴らしい。基準について、独自のものなのかグローバルなものなのか含めて記載をしていただけるとなお良い。見逃しているかもしれませんが。	2	◎ グローバル人材の能力指標を満たす学生が「修了時に」9割を超えたことを高く評価。 ◎ グローバル人材育成に向けたデジタルSDGsをアジア・アフリカ5ヶ国で実施したこと。 ◎ コロナ対策下の制約も多い中、アジア諸国の大学とオンラインセミナー等を開催したこと。 ◇ 人材育成などを通じた世界各国(五大陸)の大学・機関との連携強化をさらに拡充頂きたい。	2	◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が、中期計画(2-19)の設定【8割】を上回る90.3%となった。
	評定	評定説明																			
	◎優れた点・特色ある点 ・ 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、その教育効果により、能力指標の基準を満たす学生の割合が90%を超えるなど、目標値を上回った。 ・ グローバルに活躍できる高度専門職業人を育成するため、SDGsをテーマに、アジア・アフリカ等、多様な地域と連携したオンラインPBLを実施した。 ・ 渡航制限がある中で、アジア諸国の大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流・連携の強化を図った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ グローバルPBLについては、コロナ禍においても、様々な工夫を図っているが、オンラインの利便性を活かし、今後一層の拡充を期待する。																				
評定	評定説明(コメント)																				
2	◎ グローバル人材の能力指標をクリアしている学生がKPIを超える取り組みを行っていることを評価できる。																				
2	◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が目標値を上回り、90.3%になった。 ◇ 参加者数は限られているが、学生からの公募によるデジタルSDGsプロジェクト案に基づき、海外と共同でオンラインを活用したPBLを実施している。コロナ禍の代替策としてだけでなく、国際共修の一つの形として、今後の拡充の可能性も検討してはどうかと思われる。																				
2	◎ コロナ禍ではあるが、オンラインを活用して海外と共同でPBLを行い、グローバル人材の育成を図った点が評価できる。																				
2	◎ コロナ禍の中で、SDGsについての、オンライン活用による海外との共同研究を実施できたことは、グローバル人材育成に関する成果である。 ◎ コロナ禍において制約のある中で、アジア諸大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流を絶やさなかったことは、今まで培ってきた連携を強化するものとして評価される。																				
2	◎ グローバル人材の能力指標を満たす学生が、目標値8割だったところ90%を超えた事は素晴らしい。基準について、独自のものなのかグローバルなものなのか含めて記載をしていただけるとなお良い。見逃しているかもしれませんが。																				
2	◎ グローバル人材の能力指標を満たす学生が「修了時に」9割を超えたことを高く評価。 ◎ グローバル人材育成に向けたデジタルSDGsをアジア・アフリカ5ヶ国で実施したこと。 ◎ コロナ対策下の制約も多い中、アジア諸国の大学とオンラインセミナー等を開催したこと。 ◇ 人材育成などを通じた世界各国(五大陸)の大学・機関との連携強化をさらに拡充頂きたい。																				
2	◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が、中期計画(2-19)の設定【8割】を上回る90.3%となった。																				
参考意見(案) <table border="1"> <tr> <td> </td> </tr> </table>																					

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

大項目 21 教育内容及び教育の成果等	小項目	主な取組	自己評価	
	3-00	新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成、		A
	3-01	情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、社会人向け情報セキュリティ教育の実施、航空技術者育成プログラムの実施		S
	3-02	新教育課程の実施(平成29年度に達成済み)		-
	3-03	JABEE 受審へ向けた取組、学生生活実態調査の実施		B
	3-04	アクティブ・ラーニング推進とデザイン思考を取り入れた授業の実施		A
	3-05	国際的に活躍できる技術者の育成		A
	3-06	専攻科の一部専門科目の英語教育導入に向けた取組		B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 21】 年度評価

評価素案		委員別評定等		
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)	
◎優れた点・特色ある点 ・ 昨年度開講した医工連携分野における未来工学教育プログラムにおいて、16名の受講生を選抜し、アクティブ・ラーニングを導入した授業など、実践的なカリキュラムを実施した。また、医工連携ビジネスプログラムについては、都の関連機関との協働により講座を実施するとともに、今後の教育内容の充実につなげた。 ・ 情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいては、着実に教育成果をあげ、それぞれ目標を上回る修了生を輩出しその全員が、進学もしくは関連企業への就職が決定している。 ・ 申請を行った4プログラムとも、JABEE(技術者育成プログラムの審査・認定を行う機関)の認定を受けるとともに、JABEEが求める教育の質保証を担保するため、授業内容やカリキュラムの確認を行った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 今後有益なものとなっていく社会人向け情報セキュリティ教育については、広報活動を工夫することなどにより、多くの利用者を獲得することを期待する。	2	◎ コロナ禍に影響を乗り越えてアクティブラーニングや代替的な海外体験プログラムを工夫して実施するなど、また情報セキュリティ関連の教育展開への積極的な取り組みは評価に値する。		
	2	◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは新たな職業教育プログラムを展開し、インターンシップなどを通じて企業との連携も深めつつ、着実に修了者を輩出している。 ◇ 様々な社会人向け情報セキュリティ教育が行われており、特に、公立小中学校教員向けのイベントは、今後の学校教育環境の整備において有益なものと考えられる。広報活動等の工夫をするなど、こうした社会人向け教育がより多く利用されることを期待する。		
	1	◎ 未来工学教育プログラムについて、アクティブ・ラーニングを導入するなど、学生が積極的に参加できる授業の工夫を行うことで、第二期の受講希望者は39名にのぼり、16名の受講が決定した点が評価できる。今後のリカレント教育の展開も期待できる。 ◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、令和3年度は40名が履修し、本科12名、専攻科1名の修了生は、それぞれ、専攻科に進んだり、ICT関連の起業への就職が決定する等、ICT業界で活躍する人材の輩出を行っている点が評価できる。インターンシップや講演会など、学生のキャリア形成に資する企業と連携した取組も効果的に行われている。 ◎ 中学生向けセキュリティ勉強会について、早い時期から情報セキュリティへの関心を喚起するとともに、さらには今後の学生確保にもつながる取組として評価できる。社会人向け情報セキュリティ教育では、社会人に学び直しの機会を提供するとともに、卒業生に対しても、継続した学びの機会を創出している点も評価できる。「情報セキュリティ Lab. for Teachers」は、公立中学校教員の情報セキュリティ知識の獲得に貢献することに加え、公立中学校における産技高専の認知度向上の機会にもなっている。 ◎ 航空技術者育成プログラムは、コロナ禍にあっても、航空関連技術のレベルの高度化にも対応できる航空技術者の育成に努め、航空関係企業からも高い評価を受け、履修生も継続して航空関係の企業に就職している点が評価できる。 ◎ グローバル・コミュニケーション・プログラム、インターナショナル・エデュケーション・プログラムは、コロナ禍にあり、現地渡航はかなわなかったが、対面やオンラインを組み合わせたプログラムの工夫などにより、海外体験の機会を提供し、将来、海外で働くことへの興味を喚起する等の成果を得られている点が評価できる。参加者は54名で、到達目標の70名には満たなかったことから、引き続き、プログラムの魅力を学生に伝えることで、多くの参加が得られることが期待できる。		
	1	◎ 情報セキュリティ技術者育成、航空技術者育成、医工連携教育など、新たな社会のニーズに対応したプログラムを立ちあげ、しっかり成果を生んでいる。 ◎ 2つの国際プログラムが、コロナ禍で制約を受けているにもかかわらず、受講希望が多数に及ぶことは望ましい。 ◇ AI情報系の2つの新コースを、しっかりと軌道に乗せて頂きたい。 ▲ 社会人向けの情報セキュリティ Lab.は、研修のカリキュラムが良くても、まだ広報が足りないため受講者が少ないのではないかと推測する。		
	2	◎ グローバルコミュニケーションプログラムについて、満足度の高いプログラムを実施ができたことが評価される。		
	1	◎ 情報セキュリティ・航空・医工連携など社会の要請に応え着実に人材育成の成果を挙げていること。 ◎ 目標通り令和3年度にJABEEを受審、申請した4プログラム全てが認定されたこと。(自己評価は「B」だが厳しすぎると思われる。もっと高く評価されるべき優れた成果) ◇ JABEE受審・認定の成果について情報発信を強化していただきたい。		
	2	◎ 情報セキュリティ技術者育成本科プログラム履修生が情報系企業に就職している。 ◎ 情報セキュリティ技術者育成専攻科プログラム履修生1名の進路が、セキュリティ企業への就職と決定した。 ◎ 航空技術者育成本科プログラム履修生が航空産業に就職している。 ◎ 産業界や社会のニーズを踏まえ、情報セキュリティ技術者育成及び航空技術者育成などの専門性の高いプログラムの開発・実施により、実践的な知識・技術を習得した人材の輩出を行っている。 ◎ 申請を行った4プログラムとも、JABEE認定を受けた。		
	参考意見(案)			

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 22

教育の実施体制等
【教育システムの継続的な改善、他の教育機関等との連携】

小項目	主な取組	自己評価
3-07	運営協力者会議等を活用した教育研究の質の向上	B
3-08	都立工業高校との接続プログラムの実施	B
3-09	産技大・都立大と連携した GCP 実施、2大学1高専の連携	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 22] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
	◎ 優れた点・特色ある点 ・ 運営協力者会議を活用し、令和3年度から開始する新コースに関する意見等の聴取を行い、意見に基づく取組を検討・実施することにより、教育プログラム改善につなげている。 ・ GCP をはじめとして、2大学1高専の連携に主体的に取り組み、実績をあげている。 ◇ 更なる充実が期待される点 ・ 令和4年度編入学生として都立工業高校から5名を受入れているが、さらに連携を拡充する取組を期待する。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	◎ 2大学1高専連携の GCP の実が上がっていることを評価できる。
3	
3	
3	◎ 運営協力者会議による外部評価からの有意義な提言を、教育プログラム改善につなげている。
3	
3	◎ 運営協力者会議を活用した教育の「質向上」への取組みを継続的に行っていることを評価。 ◇ 工業高校、都立大学との連携をさらに拡充(連携実績・成果拡大)していただきたい。
3	◎ 令和4(2022)年度編入学生として都立工業高校から5名を受入れ、数学及び専門科目の入学前補習授業を実施した。

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 23

教育の実施体制等
【教育の質の評価・改善】

小項目	主な取組	自己評価
3-10	学生の学習到達度評価の充実(平成30年度に達成済)	-
3-11	機関別認証評価を踏まえた改善策の実施(令和2年度に達成済)	-
3-12	更なる教育の質の向上へ向けた教員研修の取組	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 23】 年度評価

評価素案

評定	評定説明
	◎優れた点・特色ある点 ・ 職層別研修や個別課題研修など各種研修への教員の参加率がすべて100%を達成している。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
3	
3	
3	
3	
2	◎ 各種の教員研修への参加率がすべて100%を達成していることを評価。
3	◎ 各種研修に対する教員の参加率は昨年度の高水準を維持した。

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置			
大項目 24 学生への支援	小項目	主な取組	自己評価
	3-13	多様な課外活動の支援、学生相談体制の強化、経済的支援の拡充	A
	3-14	体系化したキャリア支援の実施、キャリアポートフォリオを活用したキャリア支援の試行	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 24】 年度評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 未来工房プロジェクトなどの提案公募方式による課外活動経費の助成や、クラブ活動指導員の採用などにより、課外活動支援の充実を図った。 ・ 学生が継続して自身のキャリアに関して学んだことなどを記録することによりキャリア形成の過程を可視化するキャリアポートフォリオを活用し、就職・進学に役立てるなど、学生に対するキャリア支援を充実した。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 学生相談においては前年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 未来工房プロジェクトなどの提案公募方式による課外活動経費の助成や、クラブ活動指導員の採用などにより、課外活動支援の充実を図った。 ・ 学生が継続して自身のキャリアに関して学んだことなどを記録することによりキャリア形成の過程を可視化するキャリアポートフォリオを活用し、就職・進学に役立てるなど、学生に対するキャリア支援を充実した。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 学生相談においては前年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 特に荒川キャンパスでは例年より周知時期を早めて、未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアへの申請件数が増大している。また、提案公募方式の課外活動支援を受けた団体も顕著な成果を挙げており、コロナ禍においても課外活動が活発化している。 ◇ 学生相談においては前年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 未来工房プロジェクトについて、申請件数を大幅に増やし、16件の申請に対し11件、未来工房ジュニアは9件の申請に対し、すべてを採択された。荒川キャンパスで周知時期を早めて募集期間を延長するなどの工夫により、申請件数を大幅に増やすことができています。「産技祭」などで、プロジェクト成果を発表する機会も設け、学生が成果をまとめ、プレゼンする力をつけたり、対外的な周知機会としている点も評価できる。 ◎ 提案公募方式による課外活動支援では、支援を受けた団体が、特別賞を受賞する等、それぞれが大きな成果を収めている点が評価できる。 ◎ 心理テストや学生相談室による「スマートフォン依存に関するアンケート」などで、学生の精神状態を把握し、教員がクラス運営に活かしたり、個別面談を行うなど、実態把握を行った上で対応を実施している点が評価できる。 ◎ 学生相談について、電話相談に加えてオンラインによる相談、カウンセリングの体制を整えたことで、学生の相談件数は令和2年度の501件から令和3年度は611件と大幅に増加している。特に対面以外の相談が100件強、増加しており、コロナ禍において、学生の相談ニーズに柔軟に対応した点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 高専の知名度向上に寄与し、自発的に学習成果を生み出す課外活動であるが、定番のロボコン、鳥人間コンテストに限らず、学生の好奇心や奮起を呼び込む課外活動を開拓し、支援していくことが求められるのではないか。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 通常の学生支援策に加え、コロナ影響による経済支援認定を約70名に行ったこと。 ◎ キャリア支援講座等への参加者が前年度に比べて大幅増(過去最高レベル)となったこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 令和3(2021)年3月から導入された制度により、品川キャンパス8名、荒川キャンパス6名、合計14名のクラブ活動指導員を採用した。 ◎ 提案公募方式による課外活動支援を受けた各団体が全国レベルの大会で好成績を上げ、高専の知名度・ブランド力向上に貢献した。 ◎ キャリアポートフォリオを活用して学生個々の進路指導が行われた。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		2	◎ 特に荒川キャンパスでは例年より周知時期を早めて、未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアへの申請件数が増大している。また、提案公募方式の課外活動支援を受けた団体も顕著な成果を挙げており、コロナ禍においても課外活動が活発化している。 ◇ 学生相談においては前年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。	2	◎ 未来工房プロジェクトについて、申請件数を大幅に増やし、16件の申請に対し11件、未来工房ジュニアは9件の申請に対し、すべてを採択された。荒川キャンパスで周知時期を早めて募集期間を延長するなどの工夫により、申請件数を大幅に増やすことができています。「産技祭」などで、プロジェクト成果を発表する機会も設け、学生が成果をまとめ、プレゼンする力をつけたり、対外的な周知機会としている点も評価できる。 ◎ 提案公募方式による課外活動支援では、支援を受けた団体が、特別賞を受賞する等、それぞれが大きな成果を収めている点が評価できる。 ◎ 心理テストや学生相談室による「スマートフォン依存に関するアンケート」などで、学生の精神状態を把握し、教員がクラス運営に活かしたり、個別面談を行うなど、実態把握を行った上で対応を実施している点が評価できる。 ◎ 学生相談について、電話相談に加えてオンラインによる相談、カウンセリングの体制を整えたことで、学生の相談件数は令和2年度の501件から令和3年度は611件と大幅に増加している。特に対面以外の相談が100件強、増加しており、コロナ禍において、学生の相談ニーズに柔軟に対応した点が評価できる。	3	◇ 高専の知名度向上に寄与し、自発的に学習成果を生み出す課外活動であるが、定番のロボコン、鳥人間コンテストに限らず、学生の好奇心や奮起を呼び込む課外活動を開拓し、支援していくことが求められるのではないか。	3		2	◎ 通常の学生支援策に加え、コロナ影響による経済支援認定を約70名に行ったこと。 ◎ キャリア支援講座等への参加者が前年度に比べて大幅増(過去最高レベル)となったこと。	2	◎ 令和3(2021)年3月から導入された制度により、品川キャンパス8名、荒川キャンパス6名、合計14名のクラブ活動指導員を採用した。 ◎ 提案公募方式による課外活動支援を受けた各団体が全国レベルの大会で好成績を上げ、高専の知名度・ブランド力向上に貢献した。 ◎ キャリアポートフォリオを活用して学生個々の進路指導が行われた。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・ 未来工房プロジェクトなどの提案公募方式による課外活動経費の助成や、クラブ活動指導員の採用などにより、課外活動支援の充実を図った。 ・ 学生が継続して自身のキャリアに関して学んだことなどを記録することによりキャリア形成の過程を可視化するキャリアポートフォリオを活用し、就職・進学に役立てるなど、学生に対するキャリア支援を充実した。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 学生相談においては前年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。																				
評定	評定説明(コメント)																				
3																					
2	◎ 特に荒川キャンパスでは例年より周知時期を早めて、未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアへの申請件数が増大している。また、提案公募方式の課外活動支援を受けた団体も顕著な成果を挙げており、コロナ禍においても課外活動が活発化している。 ◇ 学生相談においては前年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。																				
2	◎ 未来工房プロジェクトについて、申請件数を大幅に増やし、16件の申請に対し11件、未来工房ジュニアは9件の申請に対し、すべてを採択された。荒川キャンパスで周知時期を早めて募集期間を延長するなどの工夫により、申請件数を大幅に増やすことができています。「産技祭」などで、プロジェクト成果を発表する機会も設け、学生が成果をまとめ、プレゼンする力をつけたり、対外的な周知機会としている点も評価できる。 ◎ 提案公募方式による課外活動支援では、支援を受けた団体が、特別賞を受賞する等、それぞれが大きな成果を収めている点が評価できる。 ◎ 心理テストや学生相談室による「スマートフォン依存に関するアンケート」などで、学生の精神状態を把握し、教員がクラス運営に活かしたり、個別面談を行うなど、実態把握を行った上で対応を実施している点が評価できる。 ◎ 学生相談について、電話相談に加えてオンラインによる相談、カウンセリングの体制を整えたことで、学生の相談件数は令和2年度の501件から令和3年度は611件と大幅に増加している。特に対面以外の相談が100件強、増加しており、コロナ禍において、学生の相談ニーズに柔軟に対応した点が評価できる。																				
3	◇ 高専の知名度向上に寄与し、自発的に学習成果を生み出す課外活動であるが、定番のロボコン、鳥人間コンテストに限らず、学生の好奇心や奮起を呼び込む課外活動を開拓し、支援していくことが求められるのではないか。																				
3																					
2	◎ 通常の学生支援策に加え、コロナ影響による経済支援認定を約70名に行ったこと。 ◎ キャリア支援講座等への参加者が前年度に比べて大幅増(過去最高レベル)となったこと。																				
2	◎ 令和3(2021)年3月から導入された制度により、品川キャンパス8名、荒川キャンパス6名、合計14名のクラブ活動指導員を採用した。 ◎ 提案公募方式による課外活動支援を受けた各団体が全国レベルの大会で好成績を上げ、高専の知名度・ブランド力向上に貢献した。 ◎ キャリアポートフォリオを活用して学生個々の進路指導が行われた。																				

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

大項目 25 入学者選抜	小項目	主な取組	自己評価
	3-15	特別推薦入試制度の実施に向けた取組	S
	3-16	女子学生確保に向けた取組	A
	3-17	意欲ある志願者確保に向けた取組	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 25】 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 品川区、荒川区との協定に基づく特別推進入試制度において、令和4年度入試は、品川区から8名、荒川区から4名、計12名から申込みがあり、計4名の学生の受入が決定した。 女子卒業生インタビューや女子高専出身者による企業インタビュー等のコンテンツをホームページに掲載し、女子学生の確保に向けた情報発信に努めた。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページや SNS 等の改修、コンテンツの拡充など、広報活動に精力的に取り組んでおり、その結果、ホームページや SNS のアクセス数、フォロワー数は増加している。一方、志願者数は伸び悩んでいることから、戦略的な広報を志願者の増加につなげていくことを期待する。 	2	◎ 女子生徒の確保を含め、SNSの有効活用、ホームページの改修によって情報発信力が増加し、その効果が出ていることを評価できる。
		2	◎ 中学2年生とその保護者を対象とした特別推薦入試説明会やスクーリングの実施、またホームページや SNS の改修、コンテンツの拡充など、広報活動に精力的に取り組んでいる。その結果、情報発信が充実し、ホームページや SNS への訪問者数が大幅に増大している。
		2	◎ 特別推進入試制度について、品川区、荒川区との協定に基づき、令和4年度入試において、計4名の学生の受入が決定し、中期目標の人数を達成した点が評価できる。 ◎ 女子学生確保に向けた取組として、アクセス数を大幅に増加させるホームページの改修を行った点が評価できる。出願時アンケートにおいても、女子学生向けページの必要性、情報収集への貢献度は80~95%と高い。引き続き、女子学生の確保に向けて、産技高専の魅力を感じることでできるページの充実が期待される。
		2	◎ 公式ホームページ、公式 SNS などを駆使して、学生募集に取り組んでいる。 ◇ 学校の一層の活性化のためにも、女子学生割合を高める諸施策は適切だと考える。
		2	◎ 地元の区と連携を強化し、中学生認知度向上を図ったことが評価できる。
		2	◎ ターゲットを意識した戦略的広報活動によるアクセス・フォロワーの大幅増を高く評価。(一般入試の志願倍率が2倍を下回っていることが残念) ◇ アクセス・フォロワー増を志願者増につなげていくための取組みを期待する。 ◇ 特別推薦入試制度による入学者の追跡調査と品川・荒川以外の区への対象拡大を期待
		1	◎ 特別推薦入試において、令和4年度より拡大した募集人員(4人)を満たす入学者があった。 ◎ 高専公式ホームページへのアクセス誘導を強化したことで全ての公式コンテンツのアクセス数・フォロワー数が大幅に増加した。
<p>参考意見(案)</p>			

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置			
大項目 26 研究	小項目	主な取組	自己評価
	3-18	外部資金獲得に資する支援等、特別研究期間取得教員増加へ向けた取組	A
	3-19	東京 2020 大会プロジェクト型教育研究(令和元年度に達成済)	-
	3-20	都立大・産技大と連携した共同研究の充実に向けた取組	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ◊…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 26】 年度評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> ◎優れた点・特色ある点 ・ 若手教員対象の応募書類添削や個人面談など、外部資金獲得のための支援を継続して行った結果、過去最高であった昨年度の科研費の採択率と同様の高水準を維持した。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 特別研究期間制度について、取得対象の拡大や、取得期間の柔軟化など、より多くの教員が取得しやすい仕組みの見直しを図ったものの、取得者が目標値に届いていないことから、取得の促進に向けた更なる取組を期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 若手教員対象の応募書類添削や個人面談など、外部資金獲得のための支援を継続して行った結果、過去最高であった昨年度の科研費の採択率と同様の高水準を維持した。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 特別研究期間制度について、取得対象の拡大や、取得期間の柔軟化など、より多くの教員が取得しやすい仕組みの見直しを図ったものの、取得者が目標値に届いていないことから、取得の促進に向けた更なる取組を期待する。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 特別研究期間制度が活用されるように、取得しやすい環境整備や取得要件の見直しなど改善が図られた。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 特別研究期間制度の利用活性化のため、応募条件の緩和を行うなど、取組の検討を行った点が評価できる。令和4年度募集分からの適用となることから、中期目標の4名への達成が期待される。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 科研費獲得支援もあって、新規採択件数が過去最多水準になったことは喜ばしい。 ◇ 特別研究期間取得教員の増加へ向けた取組みが始まった。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 特別研究期間制度を利用しやすくするための取組みを行ったことを評価。 ◎ 科学研究費獲得支援のための若手教員の応募書類添削などの取組みを評価。(残念ながら個別面談等を含めた支援実績が少ないことが残念) ◇ 特別研究期間制度の実績(2名/目標は4名)を倍増させる取組みを具体化して頂きたい。 ◇ 科学研究費獲得に向けた支援を行う教員をさらに増やすための取組みを期待したい。 ◇ 都立大・産技大と連携した共同研究を実施した場合のインセンティブを検討頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 外部資金獲得に資する支援を充実させ、科研費の採択率は昨年度と同様の高水準を維持した。 ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」について、新たに4件の研究を実施した。 ◇ 中期計画(3-18)に掲げた、「特別研究期間制度を取得する教員が【年間4人】」が達成できていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		3	◎ 特別研究期間制度が活用されるように、取得しやすい環境整備や取得要件の見直しなど改善が図られた。	3	◎ 特別研究期間制度の利用活性化のため、応募条件の緩和を行うなど、取組の検討を行った点が評価できる。令和4年度募集分からの適用となることから、中期目標の4名への達成が期待される。	2	◎ 科研費獲得支援もあって、新規採択件数が過去最多水準になったことは喜ばしい。 ◇ 特別研究期間取得教員の増加へ向けた取組みが始まった。	3		3	◎ 特別研究期間制度を利用しやすくするための取組みを行ったことを評価。 ◎ 科学研究費獲得支援のための若手教員の応募書類添削などの取組みを評価。(残念ながら個別面談等を含めた支援実績が少ないことが残念) ◇ 特別研究期間制度の実績(2名/目標は4名)を倍増させる取組みを具体化して頂きたい。 ◇ 科学研究費獲得に向けた支援を行う教員をさらに増やすための取組みを期待したい。 ◇ 都立大・産技大と連携した共同研究を実施した場合のインセンティブを検討頂きたい。	3	◎ 外部資金獲得に資する支援を充実させ、科研費の採択率は昨年度と同様の高水準を維持した。 ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」について、新たに4件の研究を実施した。 ◇ 中期計画(3-18)に掲げた、「特別研究期間制度を取得する教員が【年間4人】」が達成できていない。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・ 若手教員対象の応募書類添削や個人面談など、外部資金獲得のための支援を継続して行った結果、過去最高であった昨年度の科研費の採択率と同様の高水準を維持した。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 特別研究期間制度について、取得対象の拡大や、取得期間の柔軟化など、より多くの教員が取得しやすい仕組みの見直しを図ったものの、取得者が目標値に届いていないことから、取得の促進に向けた更なる取組を期待する。																				
評定	評定説明(コメント)																				
3																					
3	◎ 特別研究期間制度が活用されるように、取得しやすい環境整備や取得要件の見直しなど改善が図られた。																				
3	◎ 特別研究期間制度の利用活性化のため、応募条件の緩和を行うなど、取組の検討を行った点が評価できる。令和4年度募集分からの適用となることから、中期目標の4名への達成が期待される。																				
2	◎ 科研費獲得支援もあって、新規採択件数が過去最多水準になったことは喜ばしい。 ◇ 特別研究期間取得教員の増加へ向けた取組みが始まった。																				
3																					
3	◎ 特別研究期間制度を利用しやすくするための取組みを行ったことを評価。 ◎ 科学研究費獲得支援のための若手教員の応募書類添削などの取組みを評価。(残念ながら個別面談等を含めた支援実績が少ないことが残念) ◇ 特別研究期間制度の実績(2名/目標は4名)を倍増させる取組みを具体化して頂きたい。 ◇ 科学研究費獲得に向けた支援を行う教員をさらに増やすための取組みを期待したい。 ◇ 都立大・産技大と連携した共同研究を実施した場合のインセンティブを検討頂きたい。																				
3	◎ 外部資金獲得に資する支援を充実させ、科研費の採択率は昨年度と同様の高水準を維持した。 ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」について、新たに4件の研究を実施した。 ◇ 中期計画(3-18)に掲げた、「特別研究期間制度を取得する教員が【年間4人】」が達成できていない。																				

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

大項目 27

都政との連携

小項目	主な取組	自己評価
3-21	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会支援に向けた取組(令和元年度に達成済)	-
3-22	ものづくり人材の育成に貢献する小中学校向けの情報セキュリティ研修の実施、出前授業、理科・技術サポーターの派遣、情報セキュリティに関する都職員向け講座の実施に向けた取組	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 27】 年度評価

評価素案

評定	評定説明
	◎ 優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍にあつて、中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 lab. for Junior」を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。 ・ 特に「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」は、定員を大きく上回る申込みがあり、さらに教員による情報セキュリティ関連イベントへの協力を通じて企業等との関係構築を行い、後援企業を開拓することで、新規で5団体・1企業を確保し、計 47 団体となった。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
3	◎ 中学生向けの情報セキュリティ研修に多数の申込み、参加があるとともに、後援企業等も着実に数を増やしており、情報セキュリティ等を学ぶ機会を積極的に提供している。
3	◎ コロナ禍ではあるが、中学生を対象に、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」「ICT 基礎 Lab. for Junior」を開催し、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」は定員を大きく上回る申込みがあり、「ICT 基礎 Lab. for Junior」は、後援企業を新規で5団体・1企業を確保するなど、継続して充実した取組を行っている点が評価できる。中学校を対象とした出前講座、渋谷区と連携した小中学生向け「ハチラゴ講座」は、高専の広報機会ともなっている。
3	◎ 「サイバーセキュリティ Tokyo for Junior」「ICT 基礎 Lab. for Junior」「ハチラゴ講座」など小中学生向けイベントが充実してきている。
3	
3	◎ 小中学校向け「情報セキュリティセミナー」や出前授業などを実施したことを評価。 ◇ 令和4年度は都職員向け研修として是非「情報セキュリティ教育」を実施して頂きたい。(オンラインでの実施も含めて検討いただきたい)
2	◎ 中学校向けの情報セキュリティ研修「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」には定員を超える申込みがあり、研修終了後のアンケートでは高い評価が得られている。 ◎ 「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」の後援企業として、新規で5団体・1企業を獲得し、計 47 団体となった。

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置			
大項目 28 社会貢献等	小項目	主な取組	自己評価
	3-23	共同研究等の機会の拡充に向けた取組	B
	3-24	地域のものづくり技術者のスキルアップに資する取組、中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座の充実化、中小企業におけるサイバーセキュリティ意識向上に資する取組	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 28】 年度評価																						
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は、さらに新規の講座が開設され充実化が図られており、特にサイバーセキュリティ関係の講座はアンケートで好評を得ている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <table border="1"> <tr> <td style="height: 100px;"></td> </tr> </table>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は、さらに新規の講座が開設され充実化が図られており、特にサイバーセキュリティ関係の講座はアンケートで好評を得ている。		<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は令和2年度に目標値を達成しているが、さらに新規の講座が開設され充実化が図られている。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 品川区・大田区と連携して実施している「若手技術者支援のための講座」について、6講座、計42名の受講者を確保し、100%の高い満足度に加え、現場での活用度も84%と高く、地域の技術者に対する実践的な講座を提供している点が評価できる。 ◎ コロナ禍ではあるが、オープンカレッジ講座、警視庁と東京商工会議所品川支部と連携したサイバーセキュリティセミナーを開催し、それぞれ参加者を確保するとともに、高い満足度を得ている。引き続き、中小企業ニーズに対応した講座の充実が期待される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 中小企業向けスキルアップ講座、中小企業向けオープンカレッジ講座、サイバーセキュリティ講座が好評を博している。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 高専 HP 活用や地元自治体(区)との連携を通じた技術相談・出前講座等の実施を評価。技術者スキルアップに向けた支援講座、オープンカレッジに加え、警視庁や商工会議所と連携した中小企業のサイバーセキュリティ研修の実施を高く評価したい。 ◇ 警視庁や商工会議所との連携をさらに強化し、中小企業向けサイバーセキュリティ研修をモジュール化して横展開して頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		3	◎ 中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は令和2年度に目標値を達成しているが、さらに新規の講座が開設され充実化が図られている。	3	◎ 品川区・大田区と連携して実施している「若手技術者支援のための講座」について、6講座、計42名の受講者を確保し、100%の高い満足度に加え、現場での活用度も84%と高く、地域の技術者に対する実践的な講座を提供している点が評価できる。 ◎ コロナ禍ではあるが、オープンカレッジ講座、警視庁と東京商工会議所品川支部と連携したサイバーセキュリティセミナーを開催し、それぞれ参加者を確保するとともに、高い満足度を得ている。引き続き、中小企業ニーズに対応した講座の充実が期待される。	3	◎ 中小企業向けスキルアップ講座、中小企業向けオープンカレッジ講座、サイバーセキュリティ講座が好評を博している。	3		3	◎ 高専 HP 活用や地元自治体(区)との連携を通じた技術相談・出前講座等の実施を評価。技術者スキルアップに向けた支援講座、オープンカレッジに加え、警視庁や商工会議所と連携した中小企業のサイバーセキュリティ研修の実施を高く評価したい。 ◇ 警視庁や商工会議所との連携をさらに強化し、中小企業向けサイバーセキュリティ研修をモジュール化して横展開して頂きたい。	2	
評定	評定説明																					
	◎優れた点・特色ある点 ・ 中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は、さらに新規の講座が開設され充実化が図られており、特にサイバーセキュリティ関係の講座はアンケートで好評を得ている。																					
評定	評定説明(コメント)																					
3																						
3	◎ 中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は令和2年度に目標値を達成しているが、さらに新規の講座が開設され充実化が図られている。																					
3	◎ 品川区・大田区と連携して実施している「若手技術者支援のための講座」について、6講座、計42名の受講者を確保し、100%の高い満足度に加え、現場での活用度も84%と高く、地域の技術者に対する実践的な講座を提供している点が評価できる。 ◎ コロナ禍ではあるが、オープンカレッジ講座、警視庁と東京商工会議所品川支部と連携したサイバーセキュリティセミナーを開催し、それぞれ参加者を確保するとともに、高い満足度を得ている。引き続き、中小企業ニーズに対応した講座の充実が期待される。																					
3	◎ 中小企業向けスキルアップ講座、中小企業向けオープンカレッジ講座、サイバーセキュリティ講座が好評を博している。																					
3																						
3	◎ 高専 HP 活用や地元自治体(区)との連携を通じた技術相談・出前講座等の実施を評価。技術者スキルアップに向けた支援講座、オープンカレッジに加え、警視庁や商工会議所と連携した中小企業のサイバーセキュリティ研修の実施を高く評価したい。 ◇ 警視庁や商工会議所との連携をさらに強化し、中小企業向けサイバーセキュリティ研修をモジュール化して横展開して頂きたい。																					
2																						

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置			
大項目 29 グローバル化	小項目	主な取組	自己評価
	3-25	専攻科の一部専門科目の英語教育導入に向けた取組	B
	3-26	JABEE 受審へ向けた取組	B
	3-27	国際的に活躍できる技術者の育成	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 29】 年度評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> ◎優れた点・特色ある点 ・ グローバル・コミュニケーション・プログラム、インターナショナル・エデュケーション・プログラムについては、感染拡大による渡航中止決定を受け、対面やオンラインを組み合わせたプログラムへと再構築を余儀なくされたが、海外で働くことへの興味が増したなどのアンケート結果が得られ、プログラムの趣旨に沿った結果となった。 ・ 専攻科の一部のコースのみで開講されていた英語授業を、専攻科の全コースで履修できるようリニューアルし、専攻科生 74 名中 48 名が履修した。 </td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ グローバル・コミュニケーション・プログラム、インターナショナル・エデュケーション・プログラムについては、感染拡大による渡航中止決定を受け、対面やオンラインを組み合わせたプログラムへと再構築を余儀なくされたが、海外で働くことへの興味が増したなどのアンケート結果が得られ、プログラムの趣旨に沿った結果となった。 ・ 専攻科の一部のコースのみで開講されていた英語授業を、専攻科の全コースで履修できるようリニューアルし、専攻科生 74 名中 48 名が履修した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍で海外派遣ができない中で各種グローバルプログラムについて工夫しながら実効性を上げたことは評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ GCP と IEP はコロナ禍による渡航中止やオンラインプログラムへの変更にもかかわらず、70 名の目標値に対して 54 名の参加者を確保できた。また、GCP 参加者のうち IEP から 10 名程度の推薦枠を設定したり、IEP に課題解決型グループディスカッション等を取り入れたりすることによって、2 つのプログラムの接続を図るなど工夫が凝らされている。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ コロナ禍での渡航中止やオンラインプログラムへの変更となる中、プログラムの工夫を行い、課題解決力、コミュニケーション力、プロジェクト実行力の向上を図ったほか、海外エンジニアや海外で働くことへの興味を喚起する等、国際的に活躍できる技術者育成に資する取組が推進されている点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 4プログラムについて、JABEE 認定を受けた。この申請過程における指摘事項に対応し、カリキュラム、教育体制を改善した。 ◇ コロナ禍で、GCP、IEP 共に、現地渡航に代わる国内プログラムを実施できたことは評価する。コロナ収束後に、速やかに渡航プログラムが再開されることを期待する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 専攻科の講義の一部を英語で実施したことを評価。 ◎ JABEE を受審し4項目認定を受けたことを高く評価 (大項目21コメント再掲)。 ◇ 日本語・英語を母国語としない人々との(技術面の)意思疎通能力を磨く研修を検討頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 東工大教員によるオムニバス授業「先端科学技術特論」を両キャンパスで ZOOM 開講、10 テーマのうち 4 テーマについて部分英語講義を実施し、専攻科 74 名中 48 名が履修した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明 (コメント)	2	◎ コロナ禍で海外派遣ができない中で各種グローバルプログラムについて工夫しながら実効性を上げたことは評価できる。	3	◎ GCP と IEP はコロナ禍による渡航中止やオンラインプログラムへの変更にもかかわらず、70 名の目標値に対して 54 名の参加者を確保できた。また、GCP 参加者のうち IEP から 10 名程度の推薦枠を設定したり、IEP に課題解決型グループディスカッション等を取り入れたりすることによって、2 つのプログラムの接続を図るなど工夫が凝らされている。	3	◎ コロナ禍での渡航中止やオンラインプログラムへの変更となる中、プログラムの工夫を行い、課題解決力、コミュニケーション力、プロジェクト実行力の向上を図ったほか、海外エンジニアや海外で働くことへの興味を喚起する等、国際的に活躍できる技術者育成に資する取組が推進されている点が評価できる。	2	◎ 4プログラムについて、JABEE 認定を受けた。この申請過程における指摘事項に対応し、カリキュラム、教育体制を改善した。 ◇ コロナ禍で、GCP、IEP 共に、現地渡航に代わる国内プログラムを実施できたことは評価する。コロナ収束後に、速やかに渡航プログラムが再開されることを期待する。	3		2	◎ 専攻科の講義の一部を英語で実施したことを評価。 ◎ JABEE を受審し4項目認定を受けたことを高く評価 (大項目21コメント再掲)。 ◇ 日本語・英語を母国語としない人々との(技術面の)意思疎通能力を磨く研修を検討頂きたい。	3	◎ 東工大教員によるオムニバス授業「先端科学技術特論」を両キャンパスで ZOOM 開講、10 テーマのうち 4 テーマについて部分英語講義を実施し、専攻科 74 名中 48 名が履修した。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・ グローバル・コミュニケーション・プログラム、インターナショナル・エデュケーション・プログラムについては、感染拡大による渡航中止決定を受け、対面やオンラインを組み合わせたプログラムへと再構築を余儀なくされたが、海外で働くことへの興味が増したなどのアンケート結果が得られ、プログラムの趣旨に沿った結果となった。 ・ 専攻科の一部のコースのみで開講されていた英語授業を、専攻科の全コースで履修できるようリニューアルし、専攻科生 74 名中 48 名が履修した。																				
評定	評定説明 (コメント)																				
2	◎ コロナ禍で海外派遣ができない中で各種グローバルプログラムについて工夫しながら実効性を上げたことは評価できる。																				
3	◎ GCP と IEP はコロナ禍による渡航中止やオンラインプログラムへの変更にもかかわらず、70 名の目標値に対して 54 名の参加者を確保できた。また、GCP 参加者のうち IEP から 10 名程度の推薦枠を設定したり、IEP に課題解決型グループディスカッション等を取り入れたりすることによって、2 つのプログラムの接続を図るなど工夫が凝らされている。																				
3	◎ コロナ禍での渡航中止やオンラインプログラムへの変更となる中、プログラムの工夫を行い、課題解決力、コミュニケーション力、プロジェクト実行力の向上を図ったほか、海外エンジニアや海外で働くことへの興味を喚起する等、国際的に活躍できる技術者育成に資する取組が推進されている点が評価できる。																				
2	◎ 4プログラムについて、JABEE 認定を受けた。この申請過程における指摘事項に対応し、カリキュラム、教育体制を改善した。 ◇ コロナ禍で、GCP、IEP 共に、現地渡航に代わる国内プログラムを実施できたことは評価する。コロナ収束後に、速やかに渡航プログラムが再開されることを期待する。																				
3																					
2	◎ 専攻科の講義の一部を英語で実施したことを評価。 ◎ JABEE を受審し4項目認定を受けたことを高く評価 (大項目21コメント再掲)。 ◇ 日本語・英語を母国語としない人々との(技術面の)意思疎通能力を磨く研修を検討頂きたい。																				
3	◎ 東工大教員によるオムニバス授業「先端科学技術特論」を両キャンパスで ZOOM 開講、10 テーマのうち 4 テーマについて部分英語講義を実施し、専攻科 74 名中 48 名が履修した。																				
参考意見 (案) <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>																					

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

大項目 30 組織運営の改善	小項目	主な取組	自己評価
	4-01	プレゼンス及び認知度の更なる向上とトップマネジメントの強化、各学校や法人の適正かつ効率的な運営、法人のコンプライアンスの確保・向上のための体制整備	
4-01-2	連携組織の拡充によるマッチング機能の強化、持続可能な社会の実現に向けた調査研究機能強化		A
4-02	計画策定、予算編成作業を通じた各学校の支援、(2大学1高専)マネジメント推進等		B
4-03	教員人事制度の適切な運用・改善		B
4-04	大学の将来を担う若手研究者育成、有為な女性教員の確保・育成		B
4-05	学長の裁量による採用選考手続き、教員人事計画の策定		B
4-06	職員の属性や需要に合致した研修、継続的な OJT の実施・充実、職員のキャリア形成意識の醸成		B
4-07	専門職人事制度の検証		B
4-08	職員の語学力の向上に向けた取組		B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 30】 年度評価		委員別評定等		
評価素案	評定説明	評定	評定説明 (コメント)	
<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の実現に向けた調査研究機能強化に組織的に取り組むため、TMU サステナブル研究推進機構を設置し、都と連携した研究テーマ2件に着手するなど、都の戦略的シンクタンクとしての機能の強化を図っている。 情報分野や国際分野等高度な専門性を必要とするポストを精査し、URA4名を含む専門職人材8名を配置するとともに、勤務実績等を反映した処遇を行うことなどにより、専門職の一層の活用に向けた取組を進めた。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別招聘教授制度を導入し、トップレベルの研究者を招聘するなど、質の高い教育研究の実現に向けて人事制度改革に取り組んでいるが、クロスアポイントメント制度をはじめ、その他の制度についても一層の活用を期待する。 		3		
			3	
			3	◎ 持続可能な社会の実現に向けた調査研究機能強化に組織的に取り組み、TMU サステナブル研究推進機構を設置した点が評価できる。機構設置に先立ち2テーマの研究に着手したり、令和4年4月開始予定の「創発未来社会研究プロジェクト」の公募を行い、8件採択されるなど、研修やプロジェクトが推進されている。
			3	◇ 行政ニーズと研究シーズのマッチングに向けた意見交換や、ガイド制作が、相互に良い刺激となり成果を生むことが期待される。 ◇ 都立大学における教学 IR の活用は引き続き順調であると思われる。リソースの問題があるとは思いますが、産技大、高専においても、この教学 IR に関する知見を導入する価値評価やその検討を行う可能性はないかと考える。 ◇ 研究レベルを引き上げるための特別招聘教授制度のスタート、そしてその実現は喜ばしく、その他の研究者育成制度も一層の活用が望まれる。 ▲ 昨年も指摘しているが、「自己監査」という用語を用いるのはやめた方が良いと考えている。実質的に行っている「内部監査」の行為自体は適切に行われていると思われるが、「自己監査」という表現はやめるべきである。監査論においては、自分で作成したものを自分でチェックすることは「監査」に当たらない、「自己監査は監査にあらず」と言われるところである。
			3	
			3	◎ 各機関が取組んでいる課題(SDG's 等)を人事制度改革等により支援し、同時に自己監査や科研費監査を通じて業務の適正性も適宜点検評価・是正していることを評価。 ◇ コロナ後を見据え、働き方改革など一歩先を考えた組織運営・制度提案を期待。 ◇ 各機関のニーズ汲み上げだけでなく、事務局としての提案・リーダーシップ発揮を期待。
<p>参考意見 (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都立大学における教学 IR の活用は引き続き順調であると思われる。リソースの問題があるとは思いますが、産技大、高専においても、この教学 IR に関する知見を導入する価値評価やその検討を行う可能性はないかと考える。 監査論においては、自分で作成したものを自分でチェックすることは「監査」に当たらないため、「自己監査」という用語を用いるのは改めた方がよい。 		3	◎ 令和4(2022)年1月に TMU サステナブル研究推進機構を設置し、持続可能な社会の実現に向けた2テーマの研究に着手した。 ◎ URA4名を含む高度な専門性を必要とするポストの人材を計8名確保、配置した。 ◎ TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合が年々増大し、中期計画(4-08)の設定値【25%】にはほぼ到達している。 ◇ クロスアポイントメント制度による初の他大学出向が都立大で1名あったが、産技大、高専では実績がなく、さらなる運用の強化が期待される。	

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置			
大項目 31 教育研究組織の見直し等	小項目	主な取組	自己評価
	4-09	学長の裁量による採用選考手続き、指名人事による採用手続き(都立大)	B
	4-10	教育プログラムの開発・設計・実施、教育環境の整備	A
	4-11	情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、社会人向け情報セキュリティ教育の実施、航空技術者育成プログラムの実施、新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成	A
	4-12	2大学1高専の連携、グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 31】 年度評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> ◎優れた点・特色ある点 ・ 大学高専連携の推進に向け、2大学1高専の教職員間の情報共有や、交流の強化、高専専攻科生の都立大大学院への推薦入学について、関係者を交えて意見交換を行った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。 </td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明		◎優れた点・特色ある点 ・ 大学高専連携の推進に向け、2大学1高専の教職員間の情報共有や、交流の強化、高専専攻科生の都立大大学院への推薦入学について、関係者を交えて意見交換を行った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍対策としての教育におけるデジタル技術への対応、外部資金獲得など社会環境に対応した経営的な意思決定・行動が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 2大学1高専の連携について、法人内の教員情報を所管する事務担当者を集めて意見交換を行い、現状把握をするともに、課題の共有化を図った点が評価できる。令和2年度に策定された「新たな連携の在り方」に基づき、引き続き、2大学1高専の効果的・効率的な連携が推進されることが期待される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 情報や国際分野の教員を増員した事、学長採用枠をフレキシブルに活用できるようにしたこと、両者とも評価できる。両者は関係あるのだろうか。東京都環境公社との包括連携協定も東京都ならではの意義がある。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 各機関の連携(情報共有・交流)強化に向けた法人内事務担当者意見交換会実施を評価。 ◇ 教員情報所管だけでなく、より広範かつ多様な法人内実務担当者の交流機会創出を期待。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>▲ 中期計画に基づく個別の年度計画について、実施する組織に対し、法人組織がどのように関わるかを明らかにした計画を立てるべきである。今のままでは単に redundant だけである。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	2	◎ コロナ禍対策としての教育におけるデジタル技術への対応、外部資金獲得など社会環境に対応した経営的な意思決定・行動が評価できる。	3		3	◎ 2大学1高専の連携について、法人内の教員情報を所管する事務担当者を集めて意見交換を行い、現状把握をするともに、課題の共有化を図った点が評価できる。令和2年度に策定された「新たな連携の在り方」に基づき、引き続き、2大学1高専の効果的・効率的な連携が推進されることが期待される。	3	◇ 2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。	2	◎ 情報や国際分野の教員を増員した事、学長採用枠をフレキシブルに活用できるようにしたこと、両者とも評価できる。両者は関係あるのだろうか。東京都環境公社との包括連携協定も東京都ならではの意義がある。	3	◎ 各機関の連携(情報共有・交流)強化に向けた法人内事務担当者意見交換会実施を評価。 ◇ 教員情報所管だけでなく、より広範かつ多様な法人内実務担当者の交流機会創出を期待。	3	▲ 中期計画に基づく個別の年度計画について、実施する組織に対し、法人組織がどのように関わるかを明らかにした計画を立てるべきである。今のままでは単に redundant だけである。
評定	評定説明																				
	◎優れた点・特色ある点 ・ 大学高専連携の推進に向け、2大学1高専の教職員間の情報共有や、交流の強化、高専専攻科生の都立大大学院への推薦入学について、関係者を交えて意見交換を行った。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。																				
評定	評定説明(コメント)																				
2	◎ コロナ禍対策としての教育におけるデジタル技術への対応、外部資金獲得など社会環境に対応した経営的な意思決定・行動が評価できる。																				
3																					
3	◎ 2大学1高専の連携について、法人内の教員情報を所管する事務担当者を集めて意見交換を行い、現状把握をするともに、課題の共有化を図った点が評価できる。令和2年度に策定された「新たな連携の在り方」に基づき、引き続き、2大学1高専の効果的・効率的な連携が推進されることが期待される。																				
3	◇ 2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。																				
2	◎ 情報や国際分野の教員を増員した事、学長採用枠をフレキシブルに活用できるようにしたこと、両者とも評価できる。両者は関係あるのだろうか。東京都環境公社との包括連携協定も東京都ならではの意義がある。																				
3	◎ 各機関の連携(情報共有・交流)強化に向けた法人内事務担当者意見交換会実施を評価。 ◇ 教員情報所管だけでなく、より広範かつ多様な法人内実務担当者の交流機会創出を期待。																				
3	▲ 中期計画に基づく個別の年度計画について、実施する組織に対し、法人組織がどのように関わるかを明らかにした計画を立てるべきである。今のままでは単に redundant だけである。																				
参考意見(案) <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>																					

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置			
大項目 32 事務の効率化・合理化等	小項目	主な取組	自己評価
	4-13	機能的・機動的な組織体制の確立、多様な働き方の実現や法人内共通業務の効率化へ向けた検討	S
	4-14	新たなシステムの適切な運用、事務処理フローの見直し等による業務効率化、施設予約システム運用開始による事務効率化及び利用者の利便性向上	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 32] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明 (コメント)
◎優れた点・特色ある点 ・ 働き方改革推進計画(案)や今後の業務見直しのために、全職員を対象に意見聴取を行い、計約 900 件の意見について検討した。これにより、特に超過勤務手当支払業務等の多くの労働力が割かれていた業務の合理化・効率化が図られた。 ・ 東京都の要請による、南大沢キャンパスにおける新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場を設置するにあたり、迅速に組織一丸となって対応を行い、若者へのワクチン接種の加速に寄与し、地域社会への貢献を果たした。		2	◎ コロナ対応のためのワクチン接種への協力体制の構築・運営に一定の貢献を示すことができたことは評価すべきである。
		2	◎ 働き方改革推進計画(案)や今後の業務見直しのために、全職員を対象に意見聴取を行い、総計約 900 件に上る意見を検討した。これにより、関係者が多い超過勤務手当支払業務の合理化・効率化が図られただけでなく、複数部署において業務改善が自発的に行われるようになってきている。
		1	◎ 働き方改革の推進に向けて、働き方推進本部、各部長級を支部長とする働き方推進支部のほか、各部署にワーキンググループを設置し、実務担当者など、多くの職員が参加できる体制を構築して取り組んだ点が評価できる。働き方改革推進計画の策定にあたっては、計画案に対し意見聴取を行い、約 300 件の意見の反映も行っている。 ◎ さらに、全職員を対象として、今後の働き方改革に資する業務見直しに向けた意見聴取を行い、約 600 件もの意見に対し、各支部において対応方法を検討し、回答を取りまとめた点、法人全体で共有できるようポータルサイトに掲載した点も評価できる。事務組織全体として、あらゆる職員を巻き込む体制を構築し、組織としての方向性を明確に示すことで、職員間の気運醸成を図ることができている。業務効率化に資するシステムツールの活用方法の紹介などを通じて、具体的に業務改善も推進している。
		3	◎ 働き方改革推進にあたり、全職員から意見聴取を行い、今後の業務改善に向けた意見が 600 件寄せられ、一件ずつ内容を検討した。この情報共有により、業務環境に関する職員間での共通理解が進んだ。
		2	◎ 働き方改革推進計画において、全職員が意見を申し出て参加したことが評価できる。
		参考意見 (案)	
1	◎ 東京都の要請による、南大沢キャンパスにおける新型コロナウイルスワクチン大規模接種の実施に向けて、対応組織を新設すると共に、多くの職員による会場運営チームを組織し、若者へのワクチン接種の加速に寄与し、地域社会への貢献を果たした。 ◎ 本部会議において働き方改革推進計画(案)を提示した上で、各所属を通じた全職員を対象に計画(案)への意見聴取を行った結果、約 300 件の意見が寄せられた。		

V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 / 2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 / 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

大項目 33 財務内容の改善	小項目	主な取組	自己評価
	4-15	都立大の入学考査料収入確保、オープンユニバーシティの公開講座等収入及びプレミアム・カレッジ選考手数料収入、外部資金獲得促進のための施策策定と組織体制強化	B
	4-16	寄附金受付システムの周知促進・利用拡大	A
	4-17	学生納付金等の適正水準の検討	B
	4-18	人件費の適正な管理、過年度決算分析及び戦略的な予算措置	B
	4-19	強固な財政基盤の構築	B
	4-20	学内施設(有形資産)の有効活用の促進、知的財産等(無形資産)の有効活用の促進のための情報発信、技術移転活動の強化に向けた取組	B

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 33】 年度評価

評価素案		委員評定	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
◎優れた点・特色ある点 ・引き続きURAによる教員へのサポートをきめ細かく実施すること等により、受託研究費等受入金額実績において、法人化後最高額を獲得した。 ◇更なる充実が期待される点 ・遺贈により寄付金額が大幅に増加しているが、今後も恒常的に寄付が集まるような仕組みを検討すべきである。		3	
		3	◎ 高度目標を上回る寄附金を集められた。
		3	◎ 高度目標を大きく上回る寄附を集めた点が評価できる。寄附金受付システムの改修、PR 動画による周知の効果もうかがえる。
		3	◇ コロナ基金設定が成果を上げたが、この寄付マインドを一時的なものにすることなく、恒常的に、OB や関係者からの寄付が集まるような工夫をしていきたい。同窓会との協力が重要になる。 ◇ 施設貸出を積極的に行うことは、2 大学 1 高専を、都民にとって身近な存在に近づけるし、財政にもプラスになる。効率的な実施で運営負担を減らすことを心掛けたい。
		3	◎ 都立大学の寄付が大幅に増えているが、これは特定の遺贈寄附によるもののようなものである。これは何かの働きかけによるものなのか、今後につながる寄付方法とともに、有効活用をぜひ検討していただきたい。寄付のシステムの整備されたことが評価でき、継続的に増やす仕組みも検討いただきたい。
		2	◎ コロナ緊急支援基金を約500万円集め、940人の学生支援を実施したことを評価。 ◎ コロナ下においても知的所有権の権利化が着実に進められていることを評価。 ◇ 自己収入向上など財務体質の改善成果を積極的に情報発信(情報公開)していただきたい。
参考意見		2	◎ 新財務会計システムの機能を活用し、令和3(2021)年度から前年度繰越外部資金研究費を4月から執行可能にしたことで、教員が年度を跨ぐ外部資金研究をスムーズに行えるようにした。 ◎ 受託研究費等受入金額実績において、法人化後最高額を獲得した。

VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 / 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置			
大項目 34 自己点検・評価及び情報の提供	小項目	主な取組	自己評価
	4-21	2大学1高専各校における自己点検・評価や認証評価等の対応等、評価委員会からの評価結果等の法人経営や教育研究の質の向上の取組への反映	B
	4-22	評価結果や財務情報等のホームページによる継続的な公開	B
	4-23	プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開と効果検証の実施、組織広報力の向上等	A
	4-23-2	卒業生・同窓会等との連携強化	A

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 34] 年度評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 都立大の教育・研究等の魅力をわかりやすく発信するために、都立大公式ホームページ及び大学案内のデザインリニューアルにあたり、ストーリーブランディングの手法を用いて、訴求力のあるコンテンツとなるよう検討を重ねた。 ・ 卒業生・同窓会等との連携強化に向け、都立大同窓会組織と都立大が包括連携協定を締結している。今後はこの協定に基づき、様々な取組が実施されることを期待する。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 各大学・高専に関心の高そうなユーザーをターゲットに、広報を実施しているものの、他大学・高専と比較したアピールポイント(長所・強み)をより分析し、情報発信して頂きたい。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明		◎ 優れた点・特色ある点 ・ 都立大の教育・研究等の魅力をわかりやすく発信するために、都立大公式ホームページ及び大学案内のデザインリニューアルにあたり、ストーリーブランディングの手法を用いて、訴求力のあるコンテンツとなるよう検討を重ねた。 ・ 卒業生・同窓会等との連携強化に向け、都立大同窓会組織と都立大が包括連携協定を締結している。今後はこの協定に基づき、様々な取組が実施されることを期待する。 ◇ 更なる充実が期待される点 ・ 各大学・高専に関心の高そうなユーザーをターゲットに、広報を実施しているものの、他大学・高専と比較したアピールポイント(長所・強み)をより分析し、情報発信して頂きたい。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 都立大学において、WEB マガジンを本格稼働させるとともに、公式ホームページ等のデザインをリニューアルして令和4年度の公開準備を行った。 ◎ 都立大学は一般社団法人東京都立大学同窓会との包括連携協定を締結し、連携強化が図られるようになった。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ YouTube 広告、ソーシャルメディアの積極的活用などにより、目標の広告視聴率に達したり、フォロワー数が大きく拡大するなど、プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開の効果を得られている。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 各部門で、SNS 利用、HP 充実など、積極的に広報、PR に取組んでおり、国内外での認知度、ブランド力向上に寄与している。 ◎ 都立大における同窓会組織との包括連携協定の締結、定期的会合の取組みは画期的であるし、産技大のホームカミングデーも是非継続して頂きたい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 都立大学同窓会との包括連携協定は意義ある進歩だと考える。他においても同窓会の有機的活用はぜひ進めていただきたい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 法人および各機関による戦略的な認知度・ブランド力向上に向けた取組みを評価。 ◎ 都立大 OBOG ネットワーク強化に向けた同窓会組織との包括連携協定締結を高く評価。 ◇ 各機関の認知度・ブランド力向上成果が定量的に「見える」仕組みを検討して頂きたい。(フォロワー数・プレスリリース以外の「世間の認知度向上」の「見える化」を期待) ◇ 他の大学、高専と比較したアピールポイント(長所・強み)を分析し、情報発信して頂きたい。 ◇ 高専の JABEE 認定成果を PR 材料として積極的に活用していただきたい。 ◇ 各機関のホームカミングデーを活性化するための支援策を推進していただきたい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		3	◎ 都立大学において、WEB マガジンを本格稼働させるとともに、公式ホームページ等のデザインをリニューアルして令和4年度の公開準備を行った。 ◎ 都立大学は一般社団法人東京都立大学同窓会との包括連携協定を締結し、連携強化が図られるようになった。	3	◎ YouTube 広告、ソーシャルメディアの積極的活用などにより、目標の広告視聴率に達したり、フォロワー数が大きく拡大するなど、プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開の効果を得られている。	2	◎ 各部門で、SNS 利用、HP 充実など、積極的に広報、PR に取組んでおり、国内外での認知度、ブランド力向上に寄与している。 ◎ 都立大における同窓会組織との包括連携協定の締結、定期的会合の取組みは画期的であるし、産技大のホームカミングデーも是非継続して頂きたい。	3	◎ 都立大学同窓会との包括連携協定は意義ある進歩だと考える。他においても同窓会の有機的活用はぜひ進めていただきたい。	3	◎ 法人および各機関による戦略的な認知度・ブランド力向上に向けた取組みを評価。 ◎ 都立大 OBOG ネットワーク強化に向けた同窓会組織との包括連携協定締結を高く評価。 ◇ 各機関の認知度・ブランド力向上成果が定量的に「見える」仕組みを検討して頂きたい。(フォロワー数・プレスリリース以外の「世間の認知度向上」の「見える化」を期待) ◇ 他の大学、高専と比較したアピールポイント(長所・強み)を分析し、情報発信して頂きたい。 ◇ 高専の JABEE 認定成果を PR 材料として積極的に活用していただきたい。 ◇ 各機関のホームカミングデーを活性化するための支援策を推進していただきたい。	3	
評定	評定説明																				
	◎ 優れた点・特色ある点 ・ 都立大の教育・研究等の魅力をわかりやすく発信するために、都立大公式ホームページ及び大学案内のデザインリニューアルにあたり、ストーリーブランディングの手法を用いて、訴求力のあるコンテンツとなるよう検討を重ねた。 ・ 卒業生・同窓会等との連携強化に向け、都立大同窓会組織と都立大が包括連携協定を締結している。今後はこの協定に基づき、様々な取組が実施されることを期待する。 ◇ 更なる充実が期待される点 ・ 各大学・高専に関心の高そうなユーザーをターゲットに、広報を実施しているものの、他大学・高専と比較したアピールポイント(長所・強み)をより分析し、情報発信して頂きたい。																				
評定	評定説明(コメント)																				
3																					
3	◎ 都立大学において、WEB マガジンを本格稼働させるとともに、公式ホームページ等のデザインをリニューアルして令和4年度の公開準備を行った。 ◎ 都立大学は一般社団法人東京都立大学同窓会との包括連携協定を締結し、連携強化が図られるようになった。																				
3	◎ YouTube 広告、ソーシャルメディアの積極的活用などにより、目標の広告視聴率に達したり、フォロワー数が大きく拡大するなど、プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開の効果を得られている。																				
2	◎ 各部門で、SNS 利用、HP 充実など、積極的に広報、PR に取組んでおり、国内外での認知度、ブランド力向上に寄与している。 ◎ 都立大における同窓会組織との包括連携協定の締結、定期的会合の取組みは画期的であるし、産技大のホームカミングデーも是非継続して頂きたい。																				
3	◎ 都立大学同窓会との包括連携協定は意義ある進歩だと考える。他においても同窓会の有機的活用はぜひ進めていただきたい。																				
3	◎ 法人および各機関による戦略的な認知度・ブランド力向上に向けた取組みを評価。 ◎ 都立大 OBOG ネットワーク強化に向けた同窓会組織との包括連携協定締結を高く評価。 ◇ 各機関の認知度・ブランド力向上成果が定量的に「見える」仕組みを検討して頂きたい。(フォロワー数・プレスリリース以外の「世間の認知度向上」の「見える化」を期待) ◇ 他の大学、高専と比較したアピールポイント(長所・強み)を分析し、情報発信して頂きたい。 ◇ 高専の JABEE 認定成果を PR 材料として積極的に活用していただきたい。 ◇ 各機関のホームカミングデーを活性化するための支援策を推進していただきたい。																				
3																					

Ⅶ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 / 2 安全管理に関する目標を達成するための措置 / 3 法令遵守等に関する目標を達成するための措置			
大項目 35	小項目	主な取組	自己評価
その他業務運営	4-24	施設の再配置の実施及び検討、計画的な施設整備、日野キャンパスの新棟建設	B
	4-25	学生及び教職員等に対する安全衛生教育・訓練の実施、研究室(実験室)等の使用ルール策定・周知	C
	4-26	防災体制の強化、教職員に対する防災関係の取組、災害対応マニュアルの整備	B
	4-27	省エネルギー対策の推進、持続可能な都市の実現に向けた取組	A
	4-28	ハラスメント防止の意識啓発の取組、ハラスメント発生時の適切な対応	B
	4-29	有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組	B
	4-30	研究不正行為・研究費不正使用の防止、研究コンプライアンス研修の実施	B
	4-31	更なる情報セキュリティ体制の強化、情報セキュリティ意識向上、今後を見据えた技術的セキュリティ強化策	B

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 35] 年度評価	
評価素案	委員別評定等
評定	評定説明
◎優れた点・特色ある点	▲ 南大沢キャンパスでの火災を踏まえて安全管理(教育も含めて)を今一度点検することが望ましい。
・ 持続可能な都市の実現に向けた取組として、気候非常事態宣言を发出するなど、法人としての気候変動やカーボンニュートラルに対する考え方や取り組むべき内容を他大学や社会に対して発信した。	◇ 大学院生の研究コンプライアンス研修受講率、ならびに都立大学教員の情報セキュリティ研修受講率の向上を目指して、引き続き取組の強化を期待する。
◇更なる充実が期待される点	▲ 令和3年12月に発生した、化学物質を使用した実験による火災を未然に防げなかったことは遺憾である。再発防止に向けて安全対策検討会の設置や「危険物に関する安全対策」の新たな策定など、様々な取組がなされているが、引き続き安全対策の強化を図ることが求められる。
・ 教員及び職員の研究コンプライアンス研修受講率は前年度から引き続き100%となったが、学生の研究コンプライアンス研修受講率の向上については、更なる取組の強化を期待する。	◎ 持続可能な都市の実現に向けた取組として、気候非常事態宣言を发出した点が評価できる。法人としての気候変動やカーボンニュートラルに対する考え方や取り組むべき内容を他大学や社会に対して発信し、社会的な影響も与えた。
▲改善すべき点	◇ 南大沢キャンパスで発生した火災について、今後、このような火災が発生しないよう、十分な安全対策が求められる。環境安全部会の設置、化学物質の管理、安全対策の実施などの取組が行われてきたが、火災発生後の再発防止策として、学長をトップとした学校危機対応チームの発足、安全対策検討会の設置、「危険物に関する安全対策」の新たな策定、学科・研究室単位での取組など、更なる取組の強化が行われていることから、危険物に対する安全対策が着実に推進されることが期待される。
・ 令和3年12月に発生した、化学物質を使用した実験による火災を未然に防げなかったことは遺憾である。再発防止に向けて安全対策検討会の設置や「危険物に関する安全対策」の新たな策定など、様々な取組がなされているが、引き続き安全対策の強化を図ることを求める。	◇ 日野キャンパス新棟建設は、法人初の技術提案型総合評価方式による選定、契約とのことであり評価される。これを契機に、民間ノウハウ・活力を活用する視点から、改めて、民間委託、外注可能な業務の見直し、既に行われている業者委託方法の再確認など行ってはどうか。業務の品質の向上と、コストの抑制方法を改めて検討して頂きたい。
・ 情報セキュリティ、個人情報保護に関する研修・自己点検のeラーニング受講率について、都立大教員だけが100%を達成せず、過年度からの改善も見られない。加えて情報セキュリティ事故が頻発しており、抜本的な改善を求める。	◇ 南大沢キャンパスで発生してしまった火災の反省から、再発防止に向けた対策が取られた。「まさか」の事故はやはり起こるものなので、首都直下型地震やゲリラ豪雨など、その発生時にに向けた対応策の見直しや訓練など、改めて確認して頂きたい。
	▲ 情報セキュリティ、個人情報保護に関する研修・自己点検のeラーニング受講率について、都立大教員だけが100%を達成せず、過年度からの改善も見られない。この面における危機意識が低いのではないかと危惧される。
	▲ 化学物質危険物取り扱い講習については動画配信など工夫をされていたようであるが未然に防げなかった点は、詳細な検討と改善策が必要であろう。いろいろ検討していることが記載されているが、学科の指針と研究室のガイドラインが存在するようである。もれのないように対策を整備していただきたい。
	◎ 都立大火災事故については十分な検証・再発防止策が講じられていると評価。「責任の所在」が分析評価されていないため法人事務局の評価=Cには違和感あり
	◇ 設備管理、安全、法令遵守などにおける法人事務局(内部統制部門)が果たすべき役割と権限・責任を明確にしておくべきと考える(明確にしておかない場合、事故事件が発生する度に事務局が責任を問われることになる)
参考意見(案)	◎ 教職員や学生から意見を募集し、それらの意見を踏まえ、2大学 1高専として気候非常事態宣言を发出した。
・ 外注可能な業務の見直し、既に行われている業者委託方法の再確認などを行い、業務の品質の向上と、コストの抑制方法を検討されたい。	◎ コンプライアンス研修受講率は、教員、職員とも前年度から引き続き【100%】となった。
	◎ 都立大において、教員の研究倫理教育のeラーニング受講率が前年度から引き続き【100%】を維持している。